

nord lead A1
analog modeling synthesizer

nord lead A1R
analog modeling synthesizer

ユーザー・マニュアル

Nord Lead A1

Nord Lead A1R

OS Version 1.2x

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから取り外してから行う。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。感電やショートのおそれがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき

- ⊘ 本製品を分解したり改造したりしない。
- ⊘ 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



● 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



● 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

● 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。

● 本製品に液体をこぼさない。



● 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



● 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



● 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。

● 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線しない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

● スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。

故障の原因になります。

● 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。

● 不安定な場所に置かない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。

本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の隙間に指などを入れない。

お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 地震時は本製品に近づかない。

● 本製品に前後方向から無理な力を加えない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

Nord Lead A1 ユーザー・マニュアル 目次

1 はじめに

スピードでリード.....	5
キーボードとデスクトップの2モデル.....	5

2 オーバービュー

フロントパネル.....	6
オシレーター、フィルター、アンプ.....	6
モジュレーション.....	6
エフェクト、アウトプット.....	6
ボイス・モード.....	6
ピッチ・スティック.....	6
モジュレーション・ホイール.....	6
アルペジエーター.....	6
プログラム、パフォーマンス.....	6
モーフ.....	6

ボタン.....	7
(ON/OFF) ボタン.....	7
セレクター・ボタン.....	7
(SHIFT) ボタン.....	7
マスタークロック(MST CLK) ボタン.....	7

ノブ&ダイヤル.....	7
ノブ.....	7
(SHIFT) ボタン使用時のノブ.....	7
ダイヤル.....	7
(MASTER LEVEL) ノブ.....	7

リアパネル.....	8
オーディオ端子.....	8
MIDI端子.....	8
USBポート.....	8
ペダル端子.....	8

3 使い始める

スロット.....	9
プログラムを選択する.....	9
プログラムをエディットする.....	9
プログラムを保存する.....	9
プログラムを重ねてレイヤーにする.....	9
スロットをソロ状態にする.....	9
マルチ・フォーカス機能.....	9
スプリットにする.....	10
スプリット・ポイントを設定する.....	10
スロット間でコピー/ペーストをする.....	10
パフォーマンス・モードについて.....	10
パフォーマンスを選択する.....	10
パフォーマンスをエディットする.....	10
パフォーマンスを保存する.....	10
プログラムをパフォーマンスとして保存する.....	10
モーフ機能の設定をする.....	10

4 スロットとメモリーについて

オーバービュー.....	11
スロット・ボタンの操作と動作について.....	11
スプリット機能について.....	11
ソロ機能について.....	11
マルチ・フォーカスについて.....	11
プログラムとパフォーマンスについて.....	12
プログラム.....	12
パフォーマンス.....	12

パフォーマンス・モード.....	12
パフォーマンスを選択する.....	12
パフォーマンスを保存する.....	12
スロットをパフォーマンスにコピーする.....	12
パフォーマンスをプログラムにコピーする.....	12

5 モーフ機能

モーフィング.....	13
モーフ機能.....	13
ホイール/コントロール・ペダル.....	13
ベロシティ.....	13
モーフ・ソースをパラメーターにアサインする.....	13
モーフ・パラメーター.....	13
モーフ設定をエディットする.....	14
モーフ・ボタンのラッチ機能.....	14

6 ミューテーター、ランダムイズ、ライク

ミューテーター.....	15
ミューテーションを実行する.....	15
ランダムイズ.....	15
ライク.....	15
プログラム・モードのライク機能.....	15
パフォーマンス・モードのライク機能.....	15
ライク・メモリーから本メモリーに保存する.....	15

7 パネル・リファレンス

マスター・レベル.....	16
MIDI LED.....	16
モーフ.....	16
プログラム/バリュー・ダイヤル.....	16
LEDディスプレイ.....	16
(PERF MODE/EXECUTE) ボタン ..	16
(STORE) ボタン.....	16
(COPY/MONITOR) ボタン.....	16
(PASTE) ボタン.....	16
スロット A - D.....	17
System - MIDI - Soundメニュー.....	17
マスタークロック.....	17
オクターブ・シフト.....	17
グローバル・オクターブ・シフト.....	17
スプリット.....	17
ホールド.....	17
(HOLD ENABLE) ボタン.....	17
(SHIFT/EXIT) ボタン.....	17
ピッチ・スティック.....	17
モジュレーション・ホイール.....	18
アルペジエーター.....	18
(RUN) ボタン.....	18
(RATE) ノブ.....	18
アルペジオ・マスタークロック.....	18
(RANGE) ボタン.....	18
ディレクション・ボタン.....	18
(PANIC) ボタン.....	18
ボイス・モード.....	18
ユニゾン.....	18

モノ.....	18
レガート.....	18
(GLIDE) ノブ.....	18
(MULTI FOCUS) ボタン.....	18
(BEND RANGE) ボタン.....	18

ビブラート.....	18
(INIT SOUND) ボタン.....	18

LFO/ENV.....	19
(RATE/TIME) ノブ.....	19
LFOマスタークロック(MST CLK).....	19
LFOウェーブフォーム・セレクター.....	19
エンベロープ.....	19
LFOモジュレーションの極性.....	19

モジュレーション・エンベロープ.....	19
(ATTACK) ノブ.....	19
(DECAY) ノブ.....	19
(RELEASE) ノブ.....	19
反転エンベロープ.....	20
エンベロープ・ベロシティ.....	20

オシレーター.....	20
基本アナログ波形.....	20
拡張アナログ波形.....	20
フィクスト・パルス波形.....	20
ドローパー・オルガン波形.....	20
ベル&エレビ波形.....	20
デジタル波形.....	21
エレクトリック波形.....	21
フォルマント波形.....	21

オシレーター・コンフィギュレーション	21
1オシレーター・コンフィギュレーション.....	21
Pitch (ピッチ).....	21
Shape (シェイプ).....	21
Sync (シンク).....	21
Noise (ノイズ).....	21
2オシレーター・コンフィギュレーション.....	21
Detune (デチューン).....	21
サイン波、三角波、ノコギリ波、矩形波ミックス.....	22
モジュレーション・コンフィギュレーション.....	22
FM (周波数変調).....	22
AM (振幅変調).....	22

アンプ・エンベロープ.....	22
(ATTACK) ノブ.....	22
(DECAY) ノブ.....	22
(RELEASE) ノブ.....	22
(ENV VEL) ノブ.....	22

フィルター.....	23
(FREQ) ノブ.....	23
(RESONANCE) ノブ.....	23
(LFO AMT) ノブ.....	23
(MOD ENV AMT) ノブ.....	23
(KB TRK) ボタン.....	23
(DRIVE) ノブ.....	23
(FILTER TYPE) ボタン.....	23
LP12, LP24.....	23
LP M.....	23
LP TB.....	24

BP	24	6 - ダンプ・ワン	30
HP	24	7 - ダンプ・プログラム・バンク	30
FXセクション	24	サウンド・メニュー	30
FLANG	24	1 - マスター・クロック・キーボード・シンク	30
PHAS	24	2 - ディレイ・モード	30
RM	24	3 - ビブラート・レイト	30
CHOR	24	4 - ビブラート・アマウント	30
ENSEM	24		
DRIVE	24		
(MUTATE SOUND) ボタン	24		
DELAYセクション	24	11 MIDI	
(TEMPO) ノブ	24	Nord Lead A1のMIDI動作	31
(TAP TEMPO) ボタン	25	MIDIの各種設定	31
(FEEDBACK) ボタン	25	グローバルMIDIチャンネル	31
(PING PONG) ボタン	25	スロットMIDIチャンネル	31
(DRY/WET) ノブ	25	シーケンサーを使う:グローバルMIDIチャンネル . 31	
(ON) ボタン	25	パラメーターの動きをレコーディングする	31
(RANDOMIZE SOUND) ボタン	25	シーケンサーを使う:スロットMIDIチャンネル	31
アウトプット・セクション	25	外部キーボードでスロットをコントロールする	32
(LEVEL) ノブ	25	MIDIメッセージの種類	32
(PAN) ノブ	25	プログラム・チェンジ・バンク・セレクト	32
リバーブ・セクション	25	コントロール・チェンジ・メッセージ	32
(DRY/WET) ノブ	25	ペダルのコントロール・チェンジ	32
リバーブ・セレクト・ボタン	25	ボリューム	32
(ON) ボタン	25	パン	32
(LIKE) ボタン	25	MIDIローカル・コントロール	32
(NOTE TRIG) ボタン (Nord Lead A1Rのみ)	25	MIDIスルー	32
		MIDIクロック	32
		USB-MIDI	32
		パニック	32
8 マスター・クロック		MIDIダンプ	32
マスター・クロック	26	MIDIダンプの送信	32
MIDIクロックとの同期	26	MIDIダンプの受信	32
アルペジエーターでマスター・クロック機能を使用する . 26		MIDIコントローラー・リスト	33
ディレイを同期させる	27	MIDIインプリメンテーション・チャート	34
LFOを同期させる	27		
複数のスロットでも同期可能	27	12 付録	
キーボード・シンク機能	27	仕様	35
		ディスプレイ・メッセージ	36
9 Nord Sound Manager		13 インデックス	
動作環境	28	インデックス	37
10 メニュー			
システム・メニュー	29		
1 - メモリー・プロテクト	29		
2 - トランスポーズ	29		
3 - ファイン・チューン	29		
4 - サスティン・ペダル・ポラリティ	29		
5 - ホイール・モード	29		
6 - コントロール・ペダル・モード	29		
7 - コントロール・ペダル・タイプ	29		
8 - コントロール・ペダル・ゲイン	29		
9 - ミューテーター・プロテクト	29		
A b c d - スロット・アウトプット・ルーティング	29		
MIDIメニュー	30		
G - グローバルMIDIチャンネル	30		
A, b, c, d - スロットMIDIチャンネル	30		
t - ソフト・スルーMIDIチャンネル	30		
1 - ローカル・コントロール	30		
2 - コントロール・チェンジ(CC)モード	30		
3 - プログラム・チェンジ・モード	30		
4 - ピッチ・バンド・モード	30		
5 - センドCC	30		

1 はじめに



スピードでリード

ステージで、スタジオで。最高のサウンドを引き出し、あらゆる音楽スタイルで活躍できるシンセサイザー、それがNord Lead A1です。入念に設計された新しいユーザー・インターフェイスにより、これまで以上に素早い音作りが行え、音作りの楽しさをさらにディープに、そしてスピーディに体感できます。

Nord史上最高のアナログ・モデリングが…

Nord Lead A1の心臓部、それは最新のアナログ・モデリング・エンジンです。バーチャル・アナログ・シンセシスをさらに次のレベルへと推し進める新エンジンにより、アナログ・シンセの信号経路を忠実に再現し、これまで以上にリアルなアナログ・サウンド、そして幅広い音作りの可能性を実現しました。26ボイス、4パート・マルチティンバーを誇るNord Lead A1は、限定的な機能のアナログ製品を遥かに凌ぐパワフルさをパッケージにした1台です。

…Nord史上最高のシンプルなユーザー・インターフェイスと融合

Nord Lead A1の設計上の最大のポイントとなった部分が、シンプルながらも幅広い音作りが可能な最新のユーザー・インターフェイスです。最新かつユニークなオシレーター・セクション、設定済みのモジュレーション・マトリクス、シンプル化したADRエンベロープなどにより、ディープな音作りの可能性をそのままに、より簡単でよりスピーディなサウンド・メイキングを実現しました。

Likeボタン

ライク機能は、音作りの途中で気に入った音色をマークしておけるユニークな機能です。最大50個までの「Like(いいね!)」をマークでき、その中から気に入った音色を最終的にメモリーしたり、初期の段階に戻って別のアプローチで音作りし直すといったこともできます。



Nord Sound Manager

Nord Lead A1は、Nord Sound Managerに対応しています。Nord Sound Managerは、プログラムやパフォーマンスといった音色データの並べ替えやバックアップなどの音色管理が行えるMac OS X、Windows用のアプリケーション・ソフトです。

Nordクオリティの高品質ハードウェアとして

他のNordキーボードと同様、Nord Lead A1はストックホルム(スウェーデン)のNordファクトリーで厳しい品質管理の下でハンドメイドにより生産しています。

キーボード・バージョンではFatar®49鍵キーボードを採用し、両モデルともメタル製ボディを採用。レスポンスの良いノブを装備した揺るぎのない品質で未永くご使用いただける高い信頼性を実現しました。

キーボードとデスクトップの2モデル

キーボード・タイプのNord Lead A1は、49鍵ベロシティ・センス付きのキーボード、モジュレーション・ホイール、木製ピッチ・スティックを装備しています。デスクトップ・タイプのNord Lead A1Rは、キーボード・タイプと同様、4系統のラインレベルのオーディオ・アウトプット、ヘッドフォン端子、MIDI IN、MIDI OUT端子、USBポート、サスティン・ペダル、コントロール・ペダル・インプット端子を装備しています。

2 オーバービュー



フロントパネル

フロントパネルの構成をセクションごとにご紹介します。

① オシレーター、フィルター、アンプ

Nord Lead A1のオシレーターには、クラシックなアナログ波形からデジタル的な整然とした倍音構成の波形やピッチ感の薄れた非整数倍音を含んだ波形まで、47種類の波形を内蔵しています。これらの豊富な波形とNord Lead A1独自のオシレーター・コンフィギュレーション・ショートカット機能により、スピーディな音作りを行えます。オシレーターの波形選択から始まるオシレーター・コンフィギュレーション・ショートカットには、Pitch、Detune、Shape、Sync、Sub Mix、FM、AM、Noiseがあり、アジャストノブを回すことでオシレーター構成を簡単に選ぶことができます。

フィルター・セクションにはクラシックな12/24dBローパス、ハイパス、バンドパス・フィルターのほかに、伝説的シンセのMini、TB-303のフィルター回路に採用されたラダー・フィルター、ダイオードによるフィルター回路を忠実に再現したタイプも内蔵し、オリジナルと同様のキャラクターや特性を実現しました。これらの豊富なフィルター・タイプを駆使し、自由度が高く、シャープな音作りを行えます。

② モジュレーション

モジュレーション・セクションにはLFO、3ステージ(ADR/ASR)仕様のモジュレーション・エンベローブがあります。LFOの周期は本機のマスタークロックと同期可能です。また、モジュレーション・エンベローブは反転動作も可能です。新ユーザー・インターフェイスの採用により、モジュレーションの設定状況が非常に簡単に確認でき、複雑で凝った音色も思いのままに作成できます。

③ エフェクト、アウトプット

アンサンブル、コーラス・エフェクトを内蔵しています。どちらもビンテージ・シンセに内蔵されていた回路をモデリングしたもので、アナログ特有の暖かみのある質感が特徴的です。他にもリング・モジュレーション、フェイザー、フランジャー、ドライブ・エフェクトをスロットごとに、ディレイ、リバーブも独立したエフェクト・セクションとしてスロットごとに使用できます。

④ ボイス・モード

ボイス・モードは通常のポリフォニックの他にユニゾンがあり、実際に複数のボイスを重ねた分厚いサウンドを作り出せます。また、モノフォニック(単音)のモードにはモノ、レガートの2タイプがあります。

⑤ ピッチ・スティック

ピッチ・スティックはピッチ・ベンドに使用します。ピッチ・ベンドの幅はプログラムごとに設定できます。ピッチ・スティックにはセンター部分に不感帯がありませんので、ナチュラルなビブラートやギタリストのような派手なアーミングも自在に行なえます。また、ピッチ・スティックはログカーブ的に動作しますので、センター位置からスティックが離れるほどピッチの変化量が大きくなります。

⑥ モジュレーション・ホイール

モジュレーション・ホイールはLFOなどによるビブラートやMorph(モーフ)機能のコントローラーとして音色をリアルタイムに変化させる際に使用します。

❶ Nord Lead A1Rにはピッチ・スティックやモジュレーション・ホイールが装備されていませんが、MIDIピッチ・ベンド、MIDIモジュレーション・ホイールの各メッセージを受信することでキーボード・タイプと同様のことが行えます。

⑦ アルペジエーター

アップ/ダウン、ランダム各モードや最大4オクターブのレンジで動作するアルペジエーターを4基内蔵しています。各アルペジオは本機のマスタークロックと同期可能です。

⑧ プログラム、パフォーマンス

{PROG/MENU}ダイヤルを回してプログラムや、最大4系統の異なるサウンドを同時に使用できるパフォーマンスを選択します。選択すると、LEDディスプレイにその番号が表示されます。

⑨ モーフ

Nordシリーズ伝統の、複数の音色パラメーターをモジュレーション・ホイールやペロシティ、ペダルで同時に変化させることが可能なモーフ機能がNord Lead A1にも搭載されています。モーフ機能の設定は、{MORPH}ボタンを押しながら変化させたいパラメーターのノブを回すだけのシンプル操作です。

ボタン

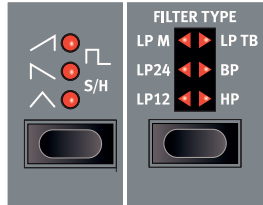
〔ON/OFF〕ボタン

〔ON/OFF〕ボタンは、パラメーターやエフェクトなどパラメーターのグループの機能をオン/オフする時に使用します。オンになるとLEDが点灯します。



セレクター・ボタン

セレクター・ボタンは複数のセッティングから1つを選択するタイプのパラメーターで使用します。複数のセッティングには丸や三角のLEDが周囲にあり、選択したセッティングが点灯します。セッティングを変更するには、セレクター・ボタンを繰り返し押します。



〔SHIFT〕ボタン

本機のパネル上にあるボタンのうち、いくつかにはもう1つの機能があり、〔SHIFT〕ボタンを押しながらその機能のボタンを押して使用します。「もう1つの」機能名はボタンの下にあります。例えば、〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔FILTER TYPE〕ボタンを押すと、フィルターのキーボードトラッキングのセッティングを選択できます。



マスター・クロック (MST CLK) ボタン

マスター・クロック・ボタン(〔SHIFT〕+〔SLOT D〕)を押すと、マスター・クロックのテンポを設定できます。設定方法には次の2通りがあります：

- 〔PROG/VALUE〕ダイヤルを回す。
- 〔SLOT D〕ボタンを設定したいテンポに合わせて数回軽く叩く(タップ・テンポ)。



ノブ&ダイヤル

Nord Lead A1での音作りや設定などの変更は、ノブやボタンを操作するだけのシンプルなもの。ノブやボタンなどのコントロール類は、その時のモードによってコントロールするパラメーターなどが変わるものもあります。ここではそのようなコントロール類の代表的なものをご紹介します。

ノブ

Nord Lead A1のパラメーターのうち、連続的に変化するものにノブが装備されています。



プログラムを選択した時、各パラメーターの設定値はノブの向きと必ずしも一致していません(むしろほとんど一致しません)が、ノブを回し始めるとその瞬間にそのパラメーターの値がノブの向きをキャッチして一致します。また、ノブの左下には緑色のLEDが付いています。

このLEDが付いているノブは、モーフ機能でコントロールできるパラメーターです。モーフ機能につきましては、13ページをご参照ください。

〔SHIFT〕ボタン使用時のノブ

ノブの中には、〔SHIFT〕ボタンを併用して使用するノブもあります。このタイプのノブの一例に、パンニング(定位)があります(OUTPUTセクション)。このタイプのノブは、〔SHIFT〕ボタンを押しながらノブを回すとノブの下の黒地に白字でプリントされているパラメーターの設定が変化します(その近くにLEDも付いています)。



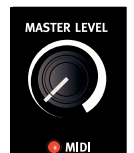
ダイヤル

Nord Lead A1にはダイヤルが3つあり、それぞれのダイヤルの近くにはLEDディスプレイがあります。ダイヤルは、プログラムやパフォーマンスを切り替えたり、オシレーターのパラメーターを変更する時などに使用します。



〔MASTER LEVEL〕ノブ

〔MASTER LEVEL〕ノブはパネル左上にあり、本機のオーディオ出力、ヘッドフォン出力のレベル(音量)を調整する時に使用します。このノブの向きは、出力レベルと常に一致しています。



- ❶ 〔MASTER LEVEL〕ノブの設定は、プログラムやパフォーマンスには保存されません。

リアパネル



オーディオ端子

〔HEADPHONES〕端子

ヘッドフォン端子です。ジャックは標準ステレオ・ジャックです。

- △ ヘッドフォンを大音量で使用すると難聴などの聴覚障害を引き起こす恐れがありますので、音量には十分にご注意の上、ご使用ください。
- ❶ アウトプット1、2に割り当てられたスロットの音のみがヘッドフォン端子に出 forceされます。

〔OUT1〕～〔OUT4〕端子

Nord Lead A1のオーディオ出力端子です。ジャックは標準ジャック(不平衡)です。この端子からキーボード・アンプやレコーディング機器などに接続します。

オーディオ接続時の鉄則

- 接続をする前にアンプの電源を切っておきましょう。
- 電源を入れる際は、アンプの電源を**最後**に入れます。
- 電源を切る際は、アンプの電源を**最初**に切ります。

各アウトプット端子へのスロットのアサイン(割り当て)は、システム・メニューで行います。

MIDI端子

〔MIDI OUT〕コネクター

Nord Lead A1から音源モジュールやシーケンサー、コンピュータなどの外部MIDI機器へMIDIメッセージを送信する際、このコネクターにMIDIケーブルを接続します。

〔MIDI IN〕コネクター

キーボードやシーケンサー、コンピュータなどの外部MIDI機器からMIDIメッセージを受信する際、このコネクターにMIDIケーブルを接続します。

USBポート

USBポートは、Nord Lead A1をコンピュータに接続する時に使用します。コンピュータ上でNord Sound Managerアプリケーションを使用し、Nord Lead A1のプログラムなどの音色管理やオペレーティング・システム(OS)のアップデートが行えます。

USB-MIDI機能

Nord Lead A1では、USBポートを介してMIDIメッセージの送受信が行えます。

- △ Microsoft Windows OSを使用しているコンピュータの場合、USB-MIDI機能を使用するにはドライバー・ソフトが必要になります。ドライバー・ソフトはNordウェブサイトのダウンロード・エリアから入手できます。

ペダル端子

Nord Lead A1にはサステイン・ペダル、コントロール・ペダルの2つのペダル・インプット端子があります。

〔SUSTAIN PEDAL〕インプット

ジャックは標準ジャックで、スイッチ・タイプのペダルを接続します。ペダルを踏むと、弾いた音が長く伸びます。

スイッチ・タイプのペダルには機種によって2種類の極性(オープン、クローズド)があります。ペダルを踏んでいない時に音が長く伸びてしまう場合は、極性が合っていないので、システム・メニューでペダルに合った極性に切り替えてご使用ください。

〔CONTROL PEDAL〕インプット

ジャックは標準ステレオ・ジャックで、エクスプレッション・ペダルと呼ばれる、連続的に変化するペダルを接続します。このタイプのペダルは、モーフ機能のコントローラーや、本機の全体的なボリューム調整用としても使用できます。

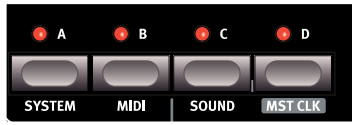
エクスプレッション・ペダルをこの端子に接続する場合、ケーブルは標準ステレオ・プラグ(TRS: チップ/リング/スリーブ)のものを必ずご使用ください。

エクスプレッション・ペダルは、機種によって抵抗値やオフセット値などの仕様が異なることが多くありますが、Nord Lead A1では主要なペダル・メーカー(ヤマハ、コルグ、ローランド、FATAR)の各設定値をプリセットとして内蔵しています。システム・メニューでお使いのペダル・メーカーに合わせてご使用ください。

3 使い始める

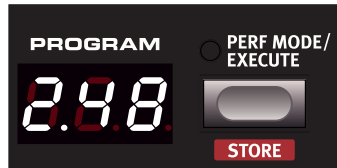
スロット

Nord Lead A1にはA~Dの4つのスロットがあり、スロットごとに独立したシンセサイザーのセッティング、つまりプログラムを使用できます。スロットを複数使用して異なるプログラムを重ねてレイヤー・サウンドにしたり、スロットを切り替えることで素早くプログラムを切り替えるなど、活用法は様々です。



プログラムを選択する

① (PERF MODE) ボタンを押すと(PERF MODE)LEDが消えます。このLEDが消灯している状態がプログラム・モードで、スロットのLEDが赤く点灯します。



- ② (SLOT A) ボタンを押します。するとスロットAのLEDのみが点灯します。点灯しない場合、(SLOT A) ボタンを押しながら他のスロット・ボタンを押してスロットA以外の選択を解除します。
- ③ キーボードを弾きながらプログラムの音色を聴いてみます。プログラム・ダイヤルを回すとプログラムが切り替わります。

プログラムをエディットする

プログラムのエディットは、ノブやボタンの操作だけで簡単に行なえます。

- ① エディットしたいスロットを選択します。
- ② キーボードを弾きながら音色パラメーターを操作して、音色の変化を聴いてみます。

エディットした時点では、元のプログラムは消去されていません。元のプログラムに戻るには、プログラム・ダイヤルを1クリック分だけ前後どちらかに回し、回した分だけ元に戻ります。エディットをして変化した音色を残しておくには、プログラムをメモリーに保存します。



プログラムをエディットすると、ディスプレイに表示されているプログラム番号の右にドット(「.」)が表示されます。このドットは、「現在プログラムのエディット中で、未保存の状態です」という意味のサインです。

プログラムを保存する

エディットした音色が気に入りましたら、次にしたいことはその音色を保存することかと思いますが、その前にしておくべきことが1つあります。Nord Lead A1は、誤ってプログラムを消去してしまうことを防ぐメモリー・プロテクト機能がオンになった状態で工場から出荷されています。この機能はシステム・メニューでオフにすることができます。手順は次の通りです：

- ① (SHIFT) ボタンを押しながら(SYSTEM) ボタンを押します。プログラム・ダイヤルで“1.ON”(最初にあります)を選択します。
- ② (SHIFT) ボタンを押しながらプログラム・ダイヤルを回して“1.OF”にし、(EXIT) ボタンを押してメニューから抜けます。

これでメモリー・プロテクト機能がオフになりました。次はエディットしたプログラムを保存します。

③ (SHIFT) ボタンを押しながら(STORE) ボタンを押します。この時、ディスプレイの表示が点滅します。

④ 元のプログラム番号に上書き保存したい場合は、もう一度(SHIFT) ボタンを押しながら(STORE) ボタンを押します。

元のプログラム番号とは別の番号に保存したい場合は、プログラム・ダイヤルを回して保存したい番号を選択し、(SHIFT) ボタンを押しながら(STORE) ボタンを押します。これで指定した番号にエディットしたプログラムが保存されます。

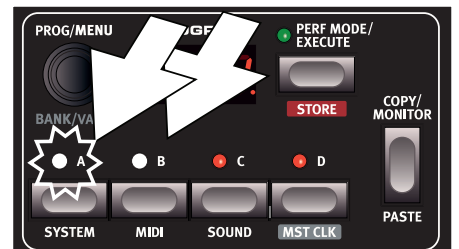
保存操作を途中で中止したい場合は、パネル上の(STORE) 以外のボタンを押します。

☞ 元のプログラム番号とは別の番号に保存する場合、別の番号を選択した時にそのプログラムの音色を聴くことができます。これにより消したくない音色に上書きしてしまうことを防げます。

プログラムを重ねてレイヤーにする

① (SLOT A) ボタンを押しながら(SLOT B) ボタンを押します。するとスロットA、B両方のLEDが点灯し、それぞれのプログラムをキーボードで同時に演奏できます。この状態を「レイヤー」と呼びます。

この時、どちらかのスロットLEDが点滅しています。点滅しているスロットがパネル上でエディット可能なスロットになります。



- ② この状態で、点滅ではなく点灯しているスロット・ボタンを押すと、そのスロットLEDが点滅し、エディット可能な状態になります。
- ③ (SLOT A) ボタンを押しながら(SLOT B) ボタンを押します。するとスロットBのLEDが消灯してスロットAのみの状態になります。

スロットをソロ状態にする

パフォーマンス・モードでは4つのプログラムを同時に使用できます。この時、選択したスロットのみの音色を聴けるソロ機能が使用できます。スロットをソロにするには、ソロにしたいスロット・ボタンをダブルタップします。ソロの解除はスロット・ボタンのいずれかを押します。

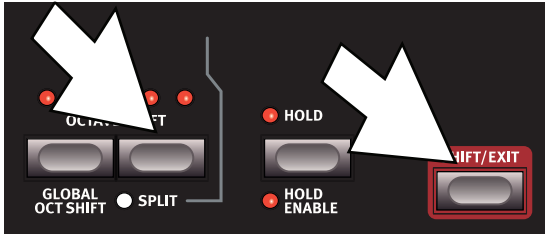
マルチ・フォーカス機能

スロットを複数使用している場合、通常はスロットLEDが点滅しているスロットのみがエディット可能な状態になります。この時、そのスロットは「フォーカスされたスロット」ということになります。この状態で、(SHIFT) ボタンを押しながら(MULTI FOCUS) ボタン((SHIFT) ボタンの右上にあります)を押すと、マルチ・フォーカス機能がオンになります。マルチ・フォーカス機能は、オンになっているすべてのスロットで同じパラメーターを同時にエディットできる機能です。この時、すべてのオンになっている(使用している)スロットLEDが点滅し、音色パラメーターを操作すると、オンになっているすべてのスロットに対してエディットを同時に行います。この機能は、(MULTI FOCUS) ボタンをもう一度押すと解除されます。

スプリットにする

スプリット機能は、キーボードを2分割してそれぞれの音域で異なる音色を弾き分けることができる機能です。この機能がオンになると、キーボードの低音域ではスロットA、Bが、高音域ではスロットC、Dが使用できます。スプリット機能は、次の手順でオンにします：

- ① [SLOT A] ボタンを押しながら[SLOT C] ボタンを押してスロットA、Cをオンにします。
- ② [SHIFT] ボタンを押しながら[SPLIT] ボタン([SHIFT] ボタンの左側にあります)を押します。これでキーボードが2分割されます。



スプリット・ポイントを設定する

[SHIFT] ボタンと[SPLIT] ボタンを押したままにすると、ディスプレイにノート・ナンバーが表示されます。この数値がスプリット・ポイントで、このポイントを境に低音域と高音域が分割されます。この状態で、キーボード上のキーを押すと、そのキーが高音域の最低音になります。

スロット間でコピー/ペーストをする

Nord Lead A1では、選択したスロットのセッティングを別のスロットにコピーすることができます。これにより、スプリット演奏時に音域の上下で音色を入れ替えたい場合などに便利です。手順は次の通りです：

- ① [COPY] ボタンを押しながら、コピー元にするスロット・ボタンを押します。
この時、ディスプレイに“CP”の文字とコピー元のスロット(A~Dのいずれか)が表示されます。
- ② [SHIFT] ボタンと[PASTE] ボタンを押しながら、コピー先にしたいスロット・ボタンを押します。この時、ディスプレイに“PS”の文字とコピー先のスロット(A~Dのいずれか)が表示されます。

ペーストが終了しても、本機の電源をオフにしたり、新たにコピー操作をするまではコピーしたデータがクリップボードに残った状態になります。これは1つのコピー元から複数のコピー先にペーストしたい場合に便利です。

- ❶ コピー/ペーストを行った場合、そのプログラムやパフォーマンスを保存せずに別のプログラムやパフォーマンスを選択すると、コピー/ペーストしたセッティングが消去されてしまいますのでご注意ください。

パフォーマンス・モードについて

レイヤーやスプリット機能のオン/オフ、スプリット・ポイントやグローバル・オクターブ・シフト機能の設定を駆使して、複雑なセッティングをメモリーしておくことができます。これらの各種設定はパフォーマンス・モードで行います。パフォーマンス・モードでは、すべてのスロットの音色データと、各スロットのオン/オフ設定もメモリーできます。

パフォーマンスを選択する

- ① [PERF MODE] ボタンを押すと、パフォーマンス・モードに入ります。
- ② プログラム・ダイヤルを回してパフォーマンスを選択します。パフォーマンスは、“A. 1”から“d.50”までの200種類が入っています。パフォーマンスには複数の音色を重ねたレイヤーや、キーボードを2分割し、それぞれの音域に異なる音色を割り当てたスプリットのものがあります。



パフォーマンスをエディットする

パフォーマンス内のプログラムを変更するには、変更したいプログラムが入っているスロット・ボタンを押しながら、プログラム・ダイヤルを回します。

パフォーマンスを保存する

パフォーマンスの保存は、プログラムの保存と同様に行います。9ページをご参照ください。

プログラムをパフォーマンスとして保存する

プログラム・モードでレイヤーやスプリットを作成した場合、それをパフォーマンスとして保存することができます。手順は次の通りです：

- ① [SHIFT] ボタンを押しながら[STORE] ボタンを押します。
この時、ディスプレイが点滅します。
- ② [PERF MODE] ボタンを押してパフォーマンス・モードに入ります。
- ③ プログラム・ダイヤルを回して保存したい番号を選択し、[SHIFT] ボタンを押しながら[STORE] ボタンを押します。

モーフ機能の設定をする

モーフ(モーフィング)機能は、モジュレーション・ホイールやキーボードを演奏するタッチの強弱(ベロシティ)で複数の音色パラメーターを同時に変化させることができるパワフルな機能です。設定方法は次の通りです：

- ① [MORPH] セクションにあるボタンのどちらかを押したままにします。ここでは例として[WHEEL] ボタン([WHEEL/PEDAL] ボタン)を押したままにします。
- ② [WHEEL] ボタンを押したままの状態、音色パラメーター(ノブ)を回します。ここでは例としてフィルターの[FREQ] ノブを回します。
- ③ [WHEEL] ボタンから手を離します。これでモジュレーション・ホイールでフィルターの cutoff フリケンシーをコントロールできます。



- ❶ モーフ機能を(この例ではモジュレーション・ホイールで)コントロールできる範囲は、手順②で操作した(FREQ)ノブを回した範囲になります。

モーフ機能の詳細につきましては、13ページをご参照ください。

4 スロットとメモリーについて

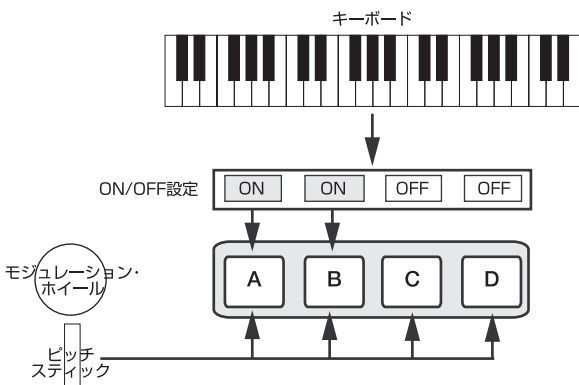
オーバービュー

Nord Lead A1は、4パートのマルチティンバーのシンセサイザーです。つまり、4パートの独立したシンセサイザーを1台で同時に使用することができます。

この各パートをスロットと呼び、各スロットには1台分のシンセサイザーが入ります。スロットにはA、B、C、Dの4つがあります。

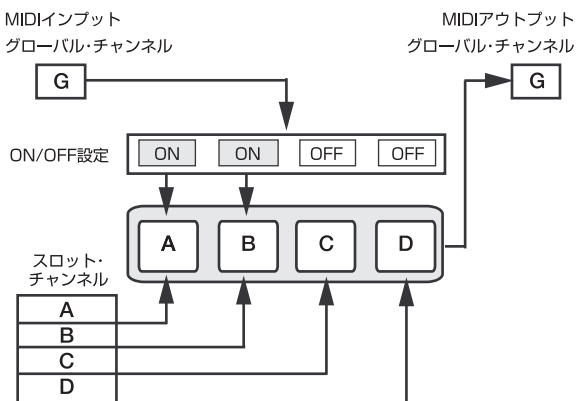
パネル上に表示したり、エディットが可能なスロットは1つまでです。スロットをエディットする場合は、そのスロットのスロット・ボタン（〔SLOT A〕～〔SLOT D〕のいずれか）を押して選択します。

各スロットは個別にオン/オフを切り替えることができ、オンになっているスロットはすべてキーボードで演奏できます（下図をご覧ください）。複数のスロットがオンになっている状態を、レイヤーと呼びます。



オンになっているスロットは、キーボードからの信号に反応します。一方、モジュレーション・ホイール、ピッチ・スティック、コントロール・ペダル（接続時のみ）からの信号は、スロットのオン/オフ設定に関係なく全てのスロットに入ります。

各スロットはMIDIチャンネルや発音する音域を個別に設定することができます。ピッチ・スティックやモジュレーション・ホイール、コントロール・ペダル（接続時のみ）からの信号は各スロットのオン/オフ設定に関係なくすべてのスロットに入ります。



グローバル・チャンネルのMIDIメッセージは、本機のキーボードを弾いた時と同様に機能します。一方で、各スロットはMIDIチャンネルを個別に設定でき、最大4パートのマルチティンバー音源として使用できます。なお、MIDIアウトは常にグローバル・チャンネルを出力します。

スロット・ボタンの操作と動作について

スロット・ボタンは〔SLOT A〕～〔SLOT D〕の4つがあり、スロットをフォーカスさせたり、スロットをオンにする際に使用します。

スロットのフォーカスを別のスロットに変更する場合は、フォーカスさせたいスロット・ボタンを押します。オフになっているスロットがフォーカスされている場合、そのスロットがオンになり、その他はオフになります。

オンになっているスロットが1つのみの場合、そのスロットがフォーカスされている場合でもスロットLEDは点灯したままの状態になります。複数のスロットがオンになっている場合、フォーカスされているスロットLEDは点滅し、その他のオンになっているスロットLEDは点灯した状態になります。

複数のスロット・ボタンを同時に押すと、レイヤーになります。また、スロット・ボタンを1つ押したままの状態、他のスロット・ボタンを押すと、そのスロットのオン/オフ切り替えができます。

スプリット機能について

スプリット・ポイントを設定することにより、キーボードは2つの音域に分割され、低音域（左側）にはスロットA、Bが、高音域（右側）にはスロットC、Dがそれぞれ割り当てられます。スプリット・ポイントは、〔SHIFT〕ボタン、〔SPLIT〕ボタンを押しながら、分割させたい位置をキーボード上で指定する（分割させたい位置のキーを押す）と設定できます。

ソロ機能について

スロット・ボタンをダブルタップすると、そのスロットがソロ・モードになります。この時、その他のスロットは一時的にオフの状態となり、ミュートされます。スロットがソロ・モードに入ると、スロットLEDが点滅します。また、ソロ・モードに入っている状態でスロット・ボタン（どれでも構いません）を押すとソロ・モードが解除され、元の状態に戻ります。

マルチ・フォーカスについて

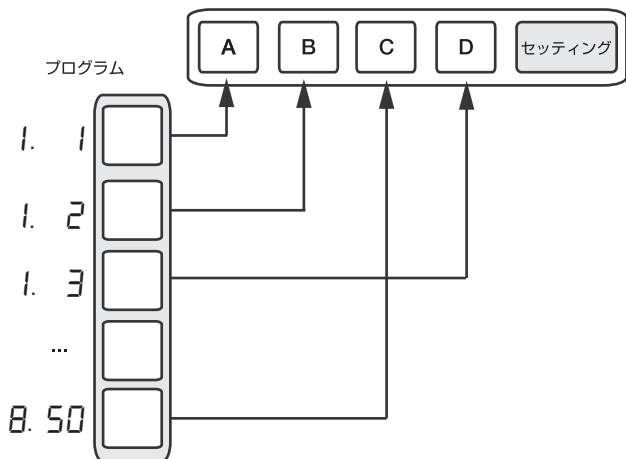
マルチ・フォーカス機能を使用すると、複数のスロットが同時にフォーカスされます。この時、音色パラメーターをエディットすると、その時フォーカスされているすべてのスロットがエディットされます。この機能をオンにするには、〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔MULTI FOCUS〕ボタンを押します。すると、その時オンになっていたすべてのスロットがフォーカスされ、各スロットのLEDが点滅します。

プログラムとパフォーマンスについて

Nord Lead A1にはプログラムとパフォーマンスの2種類の音色メモリがあります。プログラムは8つのバンクに保存され、合計400個、パフォーマンスは4つのバンクに保存され、合計200個がメモリーされています。

プログラム

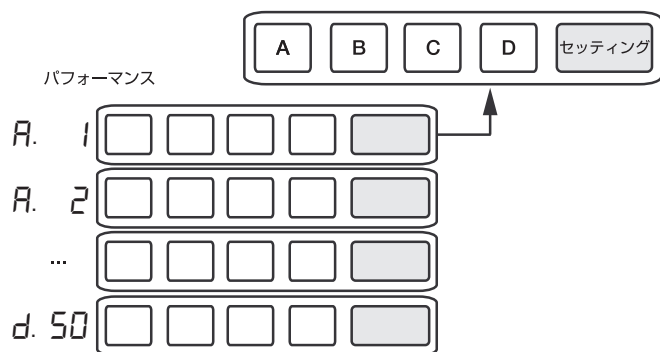
プログラムは、スロットを1つだけ使用した音色です。また、プログラムは4つあるどのスロットにもロード(読み込み)させることができます。



プログラムには、スロット1つ分だけのパラメーター・データが入っています。

パフォーマンス

パフォーマンスは、4つのすべてのスロットを使用した音色です。各スロットの音色パラメーター・データもパフォーマンスの一部として保存されます。つまりパフォーマンスは、各パフォーマンスで使用するプログラムの番号を参照しているのではなく、各スロットの音色パラメーターのデータも一緒に保存されます。この他に各スロットのフォーカス情報、スロットのオン/オフ情報、ホールド機能のオン/オフ、スプリット機能のオン/オフ、スプリットポイント、グローバル・オクターブ・シフトの設定、マルチ・フォーカス機能のオン/オフ情報もパフォーマンス用データとして保存されます。



1つのパフォーマンスには4つのスロットの音色パラメーター・データに加え、各種セッティング情報が入っています。

パフォーマンス・モード

[PERF MODE] ボタンは、押すごとにパフォーマンス・モードとプログラム・モードが交互に切り替わります。

パフォーマンス・モードに入っている場合、4つのスロットLEDは緑に点灯し、ディスプレイにはその時選択しているパフォーマンスのバンクが次のような文字で表示されます：A、b、[、d

プログラム・モードでは、スロットLEDは赤く点灯し、バンクは1~8の数字で表示されます。

プログラム、パフォーマンスの各モードには、それぞれ個別のスロット・バッファというメモリー領域があります。これは、例えばパフォーマンス・モードで音色エディットをした場合でも、プログラム・モードのデータには影響を及ぼすことなく、自由にエディットができるというものです。同様に、プログラム・モードで音色エディットをした場合も、パフォーマンス・モードに入っている音色に影響を及ぼすことはありません。

パフォーマンスは、レイヤーなどの作成だけでなく、4つのスロットを同時に使用でき、スロットを切り替えることでプログラム・ダイヤルを使用しなくても、瞬時に音色を切り替えられるメリットもあります。

パフォーマンスを選択する

パフォーマンス・モードでも、プログラム・モードと同様、プログラム・ダイヤルを回すとパフォーマンスが切り替わります。パフォーマンスを切り替えると、すべてのスロットに音色データがメモリーからロードされます。

一方、プログラム・モードでプログラムを切り替えた場合は、1つのスロットにのみ音色データがメモリーからロードされ、その他のスロットには何もありません。

また、パフォーマンス・モードでは、プログラムをパフォーマンス・モードの各スロットにロードさせることができます。これは、ロードさせたいスロットのスロット・ボタンを押しながらプログラム・ダイヤルを回してロードさせたいプログラムを選択することで行えます。この時、他のスロットには影響を及ぼしません。この方法でプログラムをパフォーマンスにロードし、すぐに保存した場合、そのスロットがプログラムからロードされたことを示す意味で、そのスロットがフォーカスされた状態で保存されます。

パフォーマンスを保存する

プログラム・モードではフォーカスされたスロットのデータのみが保存されるのに対し、パフォーマンス・モードでは4つのスロットすべての音色データと、各種セッティングがメモリーに保存されます。

保存の方法は、[SHIFT] ボタンを押しながら[STORE] ボタンを押します。すると、ディスプレイが点滅します。この時、元のパフォーマンスとは別の番号に保存する場合は、プログラム・ダイヤルを回して保存先の番号を選択します。プログラム・ダイヤルを回すと、その番号のパフォーマンスが一時的にロードされ、上書きしても良いかどうかをチェックできます。次に、もう一度[SHIFT] ボタンを押しながら[STORE] ボタンを押すと保存が完了します。

また、保存先を選択している時にパフォーマンス・モードとプログラム・モードを切り替えることもできます。これにより、すべてのスロットのデータをパフォーマンスとして保存したり、逆にパフォーマンスにあるスロット1つ分のデータのみをプログラムとして保存することができます。

保存の手順につきましては、9ページもご参照ください。

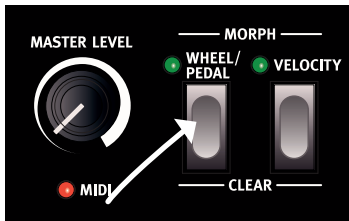
スロットをパフォーマンスにコピーする

プログラム・モードでスロットを複数追加した場合、それをパフォーマンスにコピーすることができます。[COPY] ボタンを押しながら[PERF MODE] ボタンを押すと、各スロットのデータがパフォーマンスにコピーされます。この時ディスプレイには、その時のパフォーマンス・バンクの次に“—”が表示されます。これは、そのパフォーマンスが保存されていないことを示すサインです。

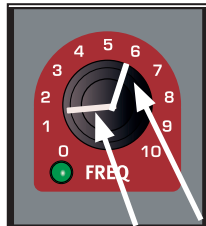
パフォーマンスをプログラムにコピーする

パフォーマンスの全スロットのデータをプログラム・モードにコピーし、複数のスロットを使用したプログラムにすることも可能です。パフォーマンス・モードで[COPY] ボタンを押しながら[PERF MODE] ボタンを押すとプログラム・モードに切り替わり、すべてのデータがプログラムにコピーされます。

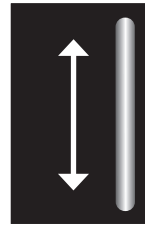
5 モーフ機能



1. (MORPH) ボタンを押しながら...



2. ...ノブを動かす



3. モジュレーション・ホイールで音色パラメーターをコントロール



4. パラメーターが変化する範囲を調整

モーフィング

モーフ(モーフィング)機能は、モジュレーション・ホイール/コントロール・ペダル、ベロシティの2つのソースを使用して音色パラメーターをリアルタイムにコントロールできるクリエイティブな機能です。

コントロールできるパラメーターは、連続的に変化するパラメーター(ノブ)で、全部で25個あります。

これらのパラメーターを1つでも複数でも同時にリアルタイムにコントロールでき、設定も非常に簡単に行なえ、その設定はプログラム、パフォーマンスに保存できます。

Nord Lead A1の工場出荷時のプログラムの多くは、モーフ機能を使用したものが入っています。

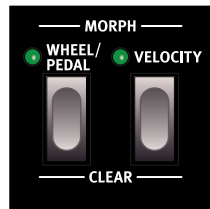
モーフ機能を使用しているプログラムを選択すると、モーフ・インジケータが緑に点灯します。

モジュレーション・ホイールやベロシティのモーフ・ソースでコントロールできる変化幅は、モーフィングを設定する時のそのパラメーター(ノブ)の元の位置から動かしたポジションまでとなります。

つまり、あるパラメーターでは非常に微妙な変化に留めておく一方で、別のパラメーターでは大胆に変化するような設定をし、それを同時にリアルタイムでコントロールできるのです。また、パラメーターの値が増加する方向だけでなく、減少する方向に設定することも可能です。

モーフ機能

モーフ機能のコントローラーとなるモーフ・ソースを見て行きましょう。



ホイール/コントロール・ペダル

モジュレーション・ホイールまたはMIDI CCO1、コントロール・ペダルをモーフ・ソースとして使用できます。

- モジュレーション・ホイールやコントロール・ペダルの最低位置が、コントロールするパラメーターの元の位置になります。
- モジュレーション・ホイールやコントロール・ペダルの最高位置が、コントロールするパラメーターのモーフィング後の位置になります。

システム・メニューでコントロール・ペダルをNord Lead A1のボリューム・コントローラーとして使用する設定にしている場合、モーフ・ソースはモジュレーション・ホイールのみとなります。この時、システム・メニューでモジュレーション・ホイールの機能をビブラートに設定している場合、MIDI CCO11がモーフ・ソースとして使用できます。

ベロシティ

もう1つのモーフ・ソースは、Nord Lead A1のキーボードのベロシティと、入力したMIDIメッセージのベロシティです。

- キー・ベロシティの値0でコントロールするパラメーターの元の位置になります。
- キー・ベロシティの値127でコントロールするパラメーターのモーフィング後の位置になります。

モーフ・ソースをパラメーターにアサインする

- ① モーフ・ソース・ボタン([WHEEL/PEDAL]または[VELOCITY])を押したままにします。
- ② コントロールしたいパラメーターのノブを動かします。動かした位置がモーフ・ソースの最大値での位置になります。この時、そのパラメーターの左下にある緑のLEDが点灯し、モーフ機能がアサインされたことを表示します。
- ③ モーフ・ソース・ボタンから手を離します。これで設定は完了です。モーフ・ソースを操作すると、アサインしたパラメーターが設定に従って変化します。

モーフ機能の設定後にアサインされているパラメーターの設定を変更しても、モーフ機能の変化幅は変更されませんが、モーフ・ソースの最低値に対応するパラメーターの「元の位置」が変更後のパラメーターの設定になります。

モーフ・パラメーター

モーフ機能でコントロールできるパラメーターは、連続的に変化するタイプのパラメーターで、モーフ機能対応パラメーターにはノブのそばに緑のLEDがあります。以下はモーフ機能対応パラメーターです：

モーフ・パラメーター			
Arpeggio Rate	Glide	LFO Rate/Time	LFO Clk Div
Mod Env Attack	Mod Env Decay	Mod Env Release	Osc LFO Amt
Osc Mod Env Amt	Osc Ctrl	Filt LFO Amt	Filt Mod Env Amt
Filter Freq	Filter Res	Filter Drive	Amp Env Attack
Amp Env Decay	Amp Env Release	FX Rate/Amt*	Output Level
Arp Clk Div	Delay Tempo*	Dly Clk Div*	Delay Dry/Wet*
Reverb Dry/Wet*			

① * FX Rate/Amt, Delay Tempo, Delay Clock Div, Delay Dry/Wet, Reverb Dry/Wetの各パラメーターは、ベロシティによるモーフィングは行えません。

モーフ設定をエディットする

パラメーターの変化幅をエディットする：

- モーフ・ソース・ボタンを押しながらエディットしたいパラメーターのノブを回して新たなポジションにセットします。

モーフ・ソースにアサインされている全パラメーターを消去する：

- [SHIFT] ボタンを押しながらモーフ・ソース・ボタンを押します。

モーフ・ソースにアサインされているパラメーターを1つだけ消去する：

2種類の方法があります：

- モーフ・ソース・ボタンを押しながら消去したいパラメーターのノブを元のポジションに戻します。この時、ノブのそばにある緑のLEDが消灯します。
- モーフ・ソース・ボタンをダブルタップし(押したままの状態と同じになります)、[SHIFT] ボタンを押しながら消去したいパラメーターのノブを回します。

モーフ機能の設定をコピー/ペーストする：

- [COPY] ボタンを押しながら、コピーしたい(コピー元の)モーフ・ソースのボタンを押します。この時ディスプレイに“CPy”と表示されます。次に[SHIFT] ボタンと[PASTE] ボタンを押しながらコピー先のモーフ・ソース・ボタンを押すと、ディスプレイに“Pst”と表示されコピー/ペーストが完了します。

モーフ・ボタンのラッチ機能

モーフ・ソース・ボタンにはラッチ機能があります。これは、モーフ・ソース・ボタンを押したままの状態にしておき、片手をふさぐことなくパラメーターのアサイン設定を行える機能です。このため、アサインされているパラメーターの確認や、複数パラメーターのアサインが素早く行え、非常に便利です。手順は次の通りです：

- ① モーフ・ソース・ボタン([WHEEL/PEDAL]または[VELOCITY])をダブルタップします。
この時、モーフ・ソース・ボタンのLEDが点滅し、そのソースにアサインされているパラメーターが既にある場合は、そのノブのそばの緑のLEDが点灯します。
- ② アサインするパラメーターのノブを回します。
- ③ ダブルタップしたモーフ・ソース・ボタンをもう一度押し、ラッチ状態を解除します。

6 ミューテーター、ランダマイズ、ライク



ミューテーター

Nord Lead A1のミューテーター機能は、元の音色（プログラム、パフォーマンス）のバリエーション音色、あるいは元の音色からかけ離れた音色を瞬時に作り出せる便利で使い勝手の良い、クリエイティブな機能です。



ミューテーションを実行する

- ① (SHIFT) ボタンを押しながら(MUTATE SOUND) ボタン(FXセクションの(ON)ボタン)を押します。

ミューテーター機能は、確率的に元の音色を変化させる(あるいはどの程度変化させないか、も含みます)機能です。その時にフォーカスされているスロットをミューテーションのリファレンス、あるいは出発点とします。手動で音色パラメーターを一切変更せずにミューテーションを複数回実行した場合、実行するたびに同じ元の音色を出発点としてミューテーションを行います。ミューテーション後の音色は手動でエディットできますし、エディット後にそれを出発点として新たなミューテーションを実行することも可能です。

※ マルチフォーカス機能がオンになっている場合、オンになっている全スロットに対してミューテーションを実行します。

アウトプットレベル、アルペジエーター、リバープの全パラメーター、モノレガートの各パラメーターは、ミューテーター機能の対象外となります。

ランダマイズ

ランダマイズ機能は、元の音色などを一切考慮せずに音色パラメーターをランダムに設定する機能です。コードやメロディなど、いわゆる「音楽的な」演奏に使えるような音色になるとは限らず、ランダマイズ実行後にエディットが必要になることも少なからずあるかも知れません。

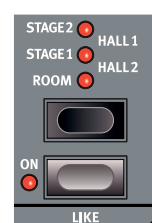


- ① システムメニューにはミューテーター・プロテクト機能があり、これをオンしておき、ミューテーションやランダマイズ実行時に(MUTATE SOUND)、(RANDOMIZE SOUND) ボタンを2度押すと、実行しても良いかどうかを確認することができます。

ライク

- ① (SHIFT) ボタンを押しながら(LIKE) ボタン(リバープセクションの(ON)ボタン)を押します。

(LIKE) ボタンを押すと、その時選択していたプログラムやパフォーマンスがライク・メモリーにセーブされます。このライク・メモリーは例えば音作りをしている間に気に入った音色を(一時的に)セーブしておくといった使い方ができます。パフォーマンス、プログラムの各モードでライク・メモリーがあり、各モードとも50個ずつセーブできます。51個目のライクをセーブすると、1個目のライクを消去してそこに51個目をセーブします。なお、ライク・メモリーは本機の電源をオフにするとすべて消去されますのでご注意ください。



プログラム・モードのライク機能

プログラム・モードでライク機能を実行すると、その時選択していたプログラムでオンになっているスロットの音色データをプログラム・モード用ライク・メモリーにセーブします。

- ① マルチフォーカス機能がオンになっている時にライク機能を実行すると、マルチフォーカスがオフになり、それ以前にオンになっていたスロット(A~Dのいずれか1つ)の音色データがライク・メモリーにセーブされます。その他のスロットの音色は、マルチフォーカス機能でエディットした後の状態のままになります。

パフォーマンス・モードのライク機能

パフォーマンス・モードでライク機能を実行すると、その時選択していたパフォーマンスがそのままパフォーマンス・モード用ライク・メモリーにセーブされます。

- ① ライク・メモリーにセーブされているプログラムやパフォーマンスと同一のプログラムやパフォーマンスは、ライク機能を実行してもセーブされません。

ライク・メモリーから本メモリーに保存する

- ① 本メモリー(プログラム、パフォーマンス用の通常のメモリー)に保存したいライク・メモリー音色を選択し、(SHIFT) ボタンを押しながら(STORE) ボタンを押します。
- ② プログラム・ダイヤルを回して保存したい番号を選択し、(SHIFT) ボタンを押しながら(STORE) ボタンを押すと保存が完了します。

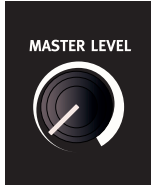


ライク機能を実行すると、ライク・メモリー・ブラウザが使用可能になり、ライク音色には、ディスプレイの最初の桁に“L”が表示され、プログラム・ダイヤルを回して選択できます。本メモリーに保存したい音色がある場合は上記手順で保存します。ブラウザから抜けるには(EXIT) ボタンを押します。

7 パネル・リファレンス

マスター・レベル

〔MASTER LEVEL〕ノブは、Nord Lead A1のオーディオ・アウト、ヘッドフォン・アウトのボリュームを調整する時に使用します。このノブの設定は、プログラムやパフォーマンスには保存されず、常にノブの向きと音量が一致しています。



☀ プログラムごとの音量を設定し、保存したい場合は、パネルの右上部分にありますアウト・セクションの〔LEVEL〕ノブで行います。

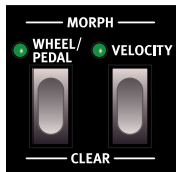
MIDI LED

MIDIメッセージを受信すると、MIDI LEDが瞬間的に点灯します。

点灯時間が短い場合、そのMIDIメッセージは受信したものの、本機では使用しないメッセージです。点灯時間が比較的長い場合、そのメッセージは本機を実際にコントロールするメッセージです。このようなメッセージには、本機で設定したMIDIチャンネルと同チャンネルのメッセージ、本機のパラメーターに対応したCC(コントロール・チェンジ)メッセージなどが含まれます。

モーフ

モーフ機能は、キー・ベロシティやモジュレーション・ホイール、コントロール・ペダルで音色パラメーター(複数選択可能)をリアルタイムにコントロールできる機能です。モーフ・ソース・ボタン(〔WHEEL/PEDAL〕または〔VELOCITY〕のいずれか)を押しながらコントロールしたいパラメーター・ノブを回して設定します。



モーフ機能の詳細につきましては、13ページをご参照ください。

プログラム/バリュー・ダイヤル

〔PROGRAM/VALUE〕ダイヤルを回してプログラムやパフォーマンスを選択します。また、各種メニューに入っている場合は、このダイヤルでメニューの機能やその設定を選択します。



このダイヤルはロータリー・エンコーダーですので何回転でも回りますが、パラメーターの範囲は上限、下限が決まっています。パラメーターの値が上限や下限に達した状態でこのダイヤルを回しても、何も変化しません。

☀ このダイヤルにはアクセラレーター機能があります。ダイヤルを素早く回すと数値が大きく増減します。

LEDディスプレイ

LEDディスプレイには選択したプログラムやパフォーマンスの番号が表示される他、メニューの機能、そのセッティング、実行タイプの機能では実行直前の確認、パラメーターの値が表示されます。

〔PERF MODE/EXECUTE〕ボタン

〔PERF MODE〕ボタンを押すと、プログラム・モードとパフォーマンス・モードが交互に切り替わります。プログラム・モードではLEDディスプレイにプログラム番号が「1.1」～「8.50」の範囲で表示されます。また、スロットLEDが赤く点灯します。



プログラム・モードは一般的にスロットを1つだけ使用して演奏するモードです。

パフォーマンス・モードでは最大4つのスロット(4つのプログラム)を使用でき、スプリットやレイヤーなどの設定や、Nord Lead A1のキーボードで演奏したり、MIDIメッセージで演奏させたりするのに便利なモードです。このモードではLEDディスプレイにパフォーマンス番号が「a」、「b」、「c」、「d」で始まる番号(1～50)で表示され、スロットLEDは緑に点灯します。

☀ スロット・ボタンを押しながらプログラム・ダイヤルを回すと、そのスロットに別のプログラムをロードさせることができます。

実行タイプの機能について：保存、ミュート、イニシャライズ(初期化)、ランダムイズ、MIDI関連(メニュー)の機能を使用する場合は、実行前にLEDディスプレイが点滅して実行しても良いかどうかを確認できます。この状態で〔PERF MODE/EXECUTE〕ボタンを押すと、その機能が実行されます。

〔STORE〕ボタン

プログラムやパフォーマンスを本機のメモリーに保存する際にこのボタンを使用します。保存の手順につきましては、9ページをご参照ください。

〔COPY/MONITOR〕ボタン

〔COPY/MONITOR〕ボタンは、設定などをコピーしたり、個々のパラメーター設定をモニターする際に使用します。〔COPY〕ボタンを押しながらモーフ・ソース・ボタンまたはスロット・ボタンを押すとモーフ機能やスロットの設定をコピーできます。



コピー機能が使用できるのはモーフ機能、スロットに入っているプログラムのデータです。一度コピーをすると、本機のクリップボードにそのデータがある限り、何度でもペーストできます。本機の電源をオフにしたり、新たにコピー操作をすると、それまでクリップボードにあったデータは消去されます。プログラム・モードでオンになっているスロットはパフォーマンスにコピーでき、同様にパフォーマンスもプログラムにコピーできます。詳細は12ページをご参照ください。

モーフ・ソースやスロットをコピーすると、LEDディスプレイに「[P4]」(この後ろに数字や文字が続く場合があります)と表示されます。また、パラメーターの設定をコピーした場合、そのパラメーターの値がディスプレイに表示されます。

〔PASTE〕ボタン

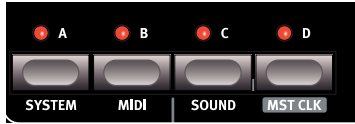
〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔PASTE〕ボタンを押して、コピーしたデータをペーストします。この時ディスプレイには「P5t」または「P5」(あるいはコピーしたパラメーターの値)が表示されます。

〔MONITOR〕ボタン

〔COPY/MONITOR〕ボタンを押しながら音色パラメーターのノブを回すと、そのパラメーターの値がディスプレイに表示されます。

スロットA - D

Nord Lead A1にはA~Dの4つのスロットがあり、各スロットにはプログラムが1つロードされます。プログラム・モードでは1つ、パフォーマンス・モードでは4つのスロットを使用できます。



- ❶ スロットLEDはプログラム・モードでは赤、パフォーマンス・モードでは緑に、メニューに入っている場合は黄色に点灯します。

スロット・ボタンを押してスロットを切り替えることで別のプログラムに切り替えることもできます。

オンになっているスロットを切り替えるには、スロット・ボタンを押すだけで切り替わります。複数のスロットをオンにするには、オンになっているスロット・ボタンを押しながら、別のオンにしたいスロット・ボタンを押します。また、複数のスロット・ボタンを同時に押すことでそれらをオンにすることもできます。

スロットをオフにする

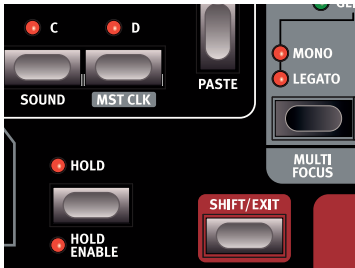
オンになっているスロット・ボタンを押しながら、別のオンになっているスロット・ボタンを押すと、後から押したスロットがオフになります。

パネル・フォーカス

スロットLEDが点滅しているスロットは、パネル上でエディットができるスロットであることを示しています。これをパネル・フォーカスと呼びます。パネル・フォーカスは、別のオンになっているスロット・ボタンを押すと切り替わります。

マルチ・フォーカス

マルチ・フォーカス機能は、パフォーマンスやスロットを複数使用している状態で、オンになっている全スロットのエディットを同時に行える機能です。〔SHIFT〕+〔MULTI FOCUS〕のボタン操作で、オンになっている全スロットのLEDが点滅します。この状態で音色パラメーターをエディットすると、全スロットでそのパラメーターの設定が変更されます。マルチ・フォーカスのオン/オフ設定は、パフォーマンスに保存されます。



スロットのソロ機能

オンになっているスロット・ボタンをダブルタップすると、そのスロットのみの音をチェックできます。この時、他のスロット・ボタンを押すとソロ機能が解除されます。

MIDI入力

スロットのMIDIチャンネルをMIDIメニューで設定している場合、そのMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信させることにより、そのスロットをMIDI経由でコントロールできます。これは、そのスロットがオフの状態でも行えます。これを利用して、あるスロットは本機のキーボードで演奏し、別のスロットはMIDIでコントロールするといったことも可能です。詳しくは、31ページのMIDIチャプターをご参照ください。

System - MIDI - Soundメニュー

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SYSTEM〕、〔MIDI〕、〔SOUND〕ボタンを押すとそれぞれのメニューに入り、様々な機能設定が行えます。各メニューの詳細につきましては、29ページをご参照ください。

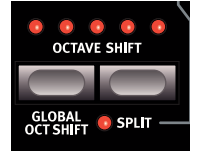
マスター・クロック

〔SHIFT〕+〔SLOT D〕でマスター・クロックのテンポがディスプレイに表示されます。この状態でプログラム・ダイヤルを回すとテンポが変わります。または、〔MST CLK〕ボタンを数回タップすることでテンポが変わります（タップ・テンポ）。テンポは、30~300BPMの範囲で設定できます。

タップ・テンポでテンポを変更する場合、なるべく均等な間隔でタップし、最低4回タップすることをお勧めします。最初のタップでその時のテンポがディスプレイに表示され、それ以降の3回は4分音符のタイミングでタップするごとにドットが桁ごとに移動しながら表示されます。

オクターブ・シフト

その時使用している音色のピッチをオクターブ単位でトランスポーズする機能で、上下2オクターブの範囲で設定できます。



5個のLEDのうち、センターのLEDが点灯している状態は、オクターブ・シフトを使用していない状態です。このパラメーターは、プログラムの一部として保存されます。

- センターLEDより右側のLEDが点灯している場合、ピッチがオクターブ単位で高い設定になります。
- センターLEDより左側のLEDが点灯している場合、ピッチがオクターブ単位で低い設定になります。

- ❶ Nord Lead A1のキーボードから出力されるMIDIメッセージ(ノート・メッセージ)はトランスポーズしません。

グローバル・オクターブ・シフト

グローバル・オクターブ・シフト機能は、本機全体のピッチをオクターブ単位でトランスポーズする機能です。この機能を使用している時、LEDの表示はオクターブ・シフト機能とは逆のパターンになります。グローバル・オクターブ・シフト機能の設定は、パフォーマンスの一部として保存されます。

- ❶ MIDIアウトから出力されるMIDIノート・メッセージも、この機能の設定に従ってトランスポーズされます。

スプリット

スプリット機能を使用するとキーボードを2分割し、スロットA、Bは低音域、スロットC、Dは高音域に割り当てられます。



スプリット・ポイントを設定する

〔SHIFT〕、〔SPLIT〕ボタンを押しながらキーボードのキーを押すと、そこがスプリット・ポイントになります。この時、押したキーのノート・ナンバーがディスプレイに表示され、その位置が高音域の最低音になります。スプリット機能の各種設定は、パフォーマンスの一部として保存されます。

ホールド

〔HOLD〕ボタンは、〔HOLD ENABLE〕ボタンと併用して演奏した音色を鍵盤から手を離してもそのまま出し続けられる機能です。ドローン・サウンドやアルペジエーターの使用時に効果的です。ホールド機能のパラメーターは、パフォーマンスの一部として保存されます。



〔HOLD ENABLE〕ボタン

プログラムでホールド機能を使用するには、〔HOLD ENABLE〕をオンにする必要があります。このことを利用し、パフォーマンスでホールド・イネーブルがオンになっているプログラム(スロット)のみホールド機能を使用することも可能です。この機能は、プログラムの一部として保存されます。

〔SHIFT/EXIT〕ボタン

〔SHIFT〕ボタンを押しながら他のボタンやノブを操作すると別の機能として使用できます。その機能名はボタンやノブの下にプリントされています。



ピッチ・スティック

ピッチ・バンドがかかります。「Band Range」パラメーターで可変幅を設定します。詳しくは18ページをご参照ください。



モジュレーション・ホイール

モジュレーション・ホイールを使用すると、ビブラート・ボイス・モードの設定が「WHEEL」になっている場合はビブラートがかかり、モーフ機能を使用している場合は音色パラメーターがリアルタイムに変化します。ホイールからはMIDI CC01を送信します。

アルペジエーター

アルペジオ(分散和音)演奏をする際にアルペジエーターを使用します。キーボードで弾いた単音やコードがアルペジオになります。



〔RUN〕ボタン

アルペジエーターのスタート/ストップをこのボタンで操作します。

〔RATE〕ノブ

このノブでアルペジオのテンポを8分音符単位で調整します。調整範囲は16BPM～“F5”(超高速)です。

アルペジオ・マスター・クロック

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔RATE〕ノブを回すと、アルペジオのテンポがマスター・クロックに同期します。この時、〔RATE〕ノブでマスター・クロックに対する音符単位でのスピード調整(クロック分割)が可能になります。

アルペジエーターのクロック分割

音符	内容
2, 4, 8, 16, 32	2分音符～32分音符
2t, 4t, 8t, 16t	2分音符三連～16分音符三連

〔RANGE〕ボタン

アルペジオ演奏をする音域を1～4オクターブの範囲で設定できます。

ディレクション・ボタン

アルペジオ・パターンを次の4種類から選択できます：アップ(LED消灯)、ダウン(DN)、アップ/ダウン(U/D)、ランダム(RND)

〔PANIC〕ボタン

演奏中に音が止まらなくなってしまった場合、〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔PANIC〕ボタンを押すと、内部的にオール・ノート・オフを実行し、この時入力していたMIDI CCメッセージをリセットします。

ボイス・モード

ユニゾン

ユニゾン機能は、デチューン(ピッチを微妙にズラした)ボイスを重ねて分厚いサウンドにするもので、往年のアナログ・ポリシンセに搭載されていたものと同じ機能です。また、重ねたボイスの定位が左右に広がり、ステレオ感のあるサウンドになります。タイプは次の3種類です：



- UNISON 1：わずかにデチューンされ、定位の広がった**2ボイス**
- UNISON 2：わずかにデチューンされ、定位の広がった**4ボイス**
- UNISON 3：大幅にデチューンされ、定位も大きく広がった**4ボイス**

モノ

モノを選択すると、そのスロットはモノフォニック、つまり単音モードになります。エンベロープは打鍵するごとにリトリガーします。

レガート

レガートはもう1つの単音モードで、この場合はレガート奏法をするとエンベロープがリトリガーせず、音程のみが変化します。

☀ 前の音が完全に切れる前に次の音を弾くことを、レガート奏法と呼びます。

〔GLIDE〕ノブ

グライドは、前に弾いたピッチから次に弾いたピッチへなめらかにつなぐ機能で、ポルタメントとも呼ばれます。ボイス・モードがモノまたはレガートの時に使用できます。ノブが「0」の位置ではグライドがかかりません。

- ❶ ボイス・モードがレガートの場合、レガート奏法をした時にのみグライドがかかります。

〔MULTI FOCUS〕ボタン

マルチ・フォーカス機能は、オンになっている全スロットを同時にエディットできる機能です。この機能をオンにすると、その時オンになっている全スロットのLEDが点滅し、音色パラメーターを調整すると点滅している全スロットでそのパラメーターの設定が変化します。この機能のオン/オフ設定は、パフォーマンスの一部として保存されます。スロット・ボタンを押すとこの機能が解除されます。

〔BEND RANGE〕ボタン

ベンド・レンジの設定はプログラムごとに保存でき、±48半音(4オクターブ)の範囲で設定できます。また、アップ方向とダウン方向で異なるベンド・レンジにできる設定も2種類あります。〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔BEND RANGE〕ボタンを繰り返し押すと設定が切り替わります。最初に〔BEND RANGE〕ボタンを押した時に、その時の設定値がディスプレイに表示され、それ以降このボタンを押すごとに切り替わった設定が表示されます。

- ☀ 〔BEND RANGE〕ボタンを押しながらプログラム・ダイヤルを回して設定を変更することもできます。

ベンド・レンジ	内容
Off	ピッチ・ベンドがオフになります。
1～12, 24, 48	上下方向同量のベンド設定です。
-12, -24	上方向は2半音、下方向のみ1オクターブまたは2オクターブのベンド・レンジになります。

ビブラート

〔DLY1〕、〔DLY2〕はディレイ・ビブラートで、それぞれ弾いてから0.5秒、1秒後にビブラートがかかります。ビブラートの周期、深さはサウンド・メニューで設定します。



〔WHEEL〕を選択すると、ビブラートの深さをモジュレーション・ホイール、またはMIDI CC01を受信することでコントロールできます。

〔INIT SOUND〕ボタン

〔INIT SOUND〕ボタンは、その時選択していた音色の全パラメーターの設定を初期化し、最初から音作りをしたい場合に使用する機能です。

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔INIT SOUND〕ボタンを押すとイニシャルモードになり、初期化しても良い場合は〔EXECUTE〕ボタンまたは〔INIT SOUND〕ボタンをもう一度押すと初期化を実行します。

LFO/ENV

LFOはロー・フリクエンシー・オシレーター(低周波発振器)の略で、オシレーターやフィルターに周期的なモジュレーションをかける際に使用します。Nord Lead A1のLFOにはエンベロープ・モードもあります。モジュレーションの深さはオシレーター、フィルター・セクションにある(LFO AMT)ノブで調整できます。また、LFOはマスター・クロックに動機させることも可能です。

❶ Nord Lead A1のLFOはモノフォニックです。



{RATE/TIME} ノブ

LFOの周期を調整します。

レンジ: 0.03~523Hz

LFOマスター・クロック(MST CLK)

{SHIFT} ボタンを押しながら{RATE/TIME}ノブを回すとLFOがマスター・クロックと同期します。この時、{RATE/TIME}ノブではLFO周期を音符単位で設定できます(クロック分割)。

音符	内容
4b, 2b, 1, 2, 4, 8, 16, 32, 64	4小節~64分音符
4bt, 2bt, 1t, 2t, 4t, 8t, 16t, 32t	4小節~32分音符の三連符

LFOウェーブフォーム・セクター

波形	内容
	矩形波 スイッチ的な変化のモジュレーション、例えばトリルや激しいトレモロなどに使用します。
	ノコギリ波 トップから下降していくタイプのモジュレーションに使用します。
	反転ノコギリ波 ノコギリ波の反転タイプです。
	三角波 ナチュラルなビブラートに最適な波形です。パルス・ウィズス・モジュレーションにも最適です。
S/H	スムーズ・ランダム スムーズなランダム・モジュレーションです。

エンベロープ

本機のLFOは周期的に繰り返す動作のほかに、打鍵ごとに動作するエンベロープ・モードもあります。{SHIFT} ボタンを押しながらLFOウェーブフォーム・セクター・ボタンを押すとエンベロープ・モードになります。この時、{TIME}ノブで調整できる内容は波形によって変化します。

❶ LFOがエンベロープ・モードの場合は、ポリフォニックで動作します。

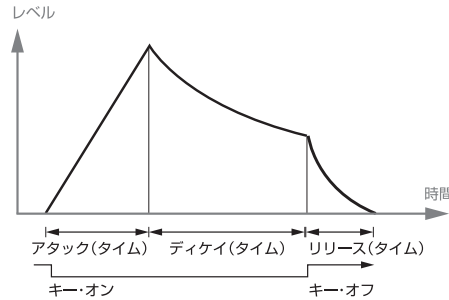
波形	内容
	ゲートタイプのエンベロープです。{TIME}ノブでゲート・タイムを調整します。
	減衰タイプのエンベロープです。{TIME}ノブでディケイ・タイムを調整します。
	アタックタイプのエンベロープです。{TIME}ノブでアタック・タイムを調整します。
	アタック/ディケイ・エンベロープです。{TIME}ノブでエンベロープ全体の長さを調整します。
S/H	打鍵ごとにランダムに変化します。{RATE/TIME}ノブで次のステップへ変化する時のラグ・タイムを調整します。

LFOモジュレーションの極性

LFOによるモジュレーションは基本的にユニポーラですが、例外的に三角波、S/Hでオシレーターのピッチ、パルス・ウィズス・モジュレーションを行う場合はバイポーラ(プラス、マイナス両方向に動く)動作になります。

モジュレーション・エンベロープ

Nord Lead A1のオシレーターやフィルターのモジュレーションに使用できるモジュレーション・エンベロープは、ポリフォニックで動作し、ADR(アタック、ディケイ、リリース)またはASR(アタック、サステイン、リリース)動作の2モードで使用できます。



{ATTACK} ノブ

{ATTACK}ノブで、モジュレーション・エンベロープのレベルがゼロから最大に達するまでの時間を調整します。アタックは、鍵盤を弾いた瞬間からスタートする、エンベロープの最初の段階です。

レンジ: 0.45ms(ミリ秒)~45s(秒)

{DECAy} ノブ

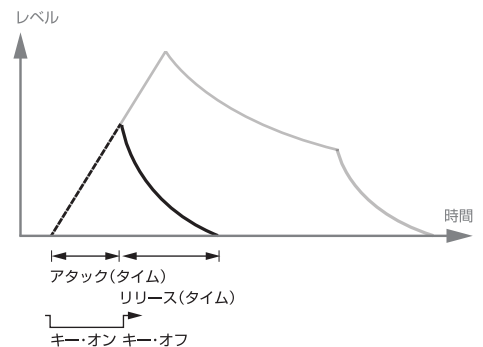
アタックの段階が終了すると、次に続くのがディケイです。本機のモジュレーション・エンベロープでは、アタックで最大に達したレベルが再びゼロに向かって降下していく時間になります。この時間を{DECAy}ノブで調整します。このノブが時計回りいっぱい状態では、減衰せずに一定のレベルを保ちます(サステイン)。

レンジ: 3.0ms~45s, サステイン

{RELEASE} ノブ

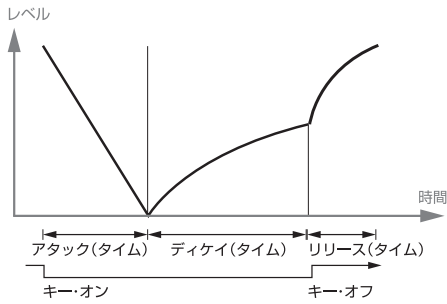
リリースの段階は、鍵盤から手が離れた時点からスタートします。その時点からレベルがゼロになるまでの時間を調整するのが{RELEASE}ノブです。また、リリースの段階はエンベロープがどの段階にあっても、下図のように、鍵盤から手が離れた時点でリリースの段階に移行します。

レンジ: 3.0ms~45s



反転エンベロープ

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔DECAY〕ノブを回すと、エンベロープの極性が右図のように反転します。



エンベロープ・ベロシティ

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔RELEASE〕ノブを回すことにより、モジュレーション・エンベロープの出力レベルをベロシティでコントロールできるようになります。

オシレーター

オシレーターは、シンセサイザー・サウンドの源流とも言うべきセクションです。様々な倍音構成の原型波がオシレーターで生成され、ここから生成される波形を様々な方法で加工したり、モジュレーションをかけて1つのサウンドに仕上がります。

Nord Lead A1では新開発のウェーブ・エンジン、また独自のオシレーター・コンフィギュレーション・ショートカットを採用しました。アナログからデジタルまで豊富な波形からチョイスできる1オシレーター・モデルから始まるオシレーター・コンフィギュレーション・ショートカットには、ピッチ、デチューン、シェイプ、シンク、FM、AM、デュアル・オシレーター、ノイズといったモデルがあり、さらにオシレーター・コントロール・ノブで様々な調整を行えます。



基本アナログ波形

	Shape=0	シェイプ・モード		
		Shape=5	Shape=10	
パルス波				
ノコギリ波				
三角波				
サイン波				

拡張アナログ波形

	Shape=0	シェイプ・モード		
		Shape=5	Shape=10	
A1				
A2				
A3				
A4				
A5				
A6				
A7				

A6: エクスポネンシャル・ノコギリ波、A7: エクスポネンシャル矩形波。

フィクスト・パルス波形

ピッチが変化してもパルス幅が変化しない、パルス幅固定の波形です。

	Shape=0	シェイプ・モード		
		Shape=5	Shape=10	
P1				
P2				
P3				

ドローバー・オルガン波形

01	808000000	“セカンド”
02	880000000	“サード”
03	888000000	“ジミー・スミス”
04	888800000	“ブルース”
05	888800008	“ゴスペル”
06	808808008	“チャーチ”
07	800008888	“スクワブル”
08	888888888	“フル・オルガン”
09	888888888 +++++	“フル・オルガン・プラス”

ベル&エレピ波形

b1	金属のバーが振動している時の非整数次倍音を含んだ波形
b2	b1の整数次倍音バージョン
b3	バーの一方の端を固定した状態で振動させた時の倍音を含んだ波形
b4	メタリックなマリンバ
b5	チューブラー・ベルの非整数次倍音を強調した波形

デジタル波形

d1	ノコギリ波の倍音構成で位相がランダムな波形
d2	矩形波の倍音構成で位相がランダムな波形
d3	偶数次倍音のみで構成された波形
d4	3倍音の系列のみで構成された波形
d5	4倍音の系列のみで構成された波形
d6	5倍音の系列のみで構成された波形
d7	Tripplets
d8	Ice

エレクトリック波形

E1	エレクトリック・ピアノ1
E2	エレクトリック・ピアノ2
E3	クラビネット1
E4	クラビネット2

フォルマント波形

F1	ボイス“AAA”
F2	ボイス“EEE”
F3	ボイス“OOO”
F4	ボイス“YYY”
F5	ボイス“AO”
F6	ボイス“AE”
F7	ボイス“OE”

オシレーター・コンフィギュレーション

オシレーター・コンフィギュレーションは、Nord Lead A1のオシレーター構成を切り替えることができる機能で、それにより様々なタイプのオシレーターを使用できます。各コンフィギュレーションのパラメーターをコントロールすることにより、オシレーターの音色を大きく変化させる事が可能です。非常にシンプルでベーシックな1オシレーターから2オシレーターを使用したウェーブシェイピングやFMアルゴリズムなど複雑な構成まで、全8タイプのオシレーター・コンフィギュレーションから選択できます。

1オシレーター・コンフィギュレーション

Pitch(ピッチ)

Pitchは1オシレーター構成で、モジュレーション・エンベロープ、LFO、あるいはモーフ機能でオシレーターのピッチを変化させることができます。1オシレーター・タイプはクリーンなベース音色やシャープな感じのソロ音色に適しています。



Shape(シェイプ)

Shapeでは[OSC CTRL]ノブを回すと強力なウェーブシェイピングがかかります。基本アナログ(矩形波、ノコギリ波、三角波、サイン波)、拡張アナログ(Extended Analog)、フィクスト・パルス(Fixed Pulse)の各波形を使用している場合、[OSC CTRL]ノブでトラディショナル手法によりウェーブシェイピング、その他の波形では波形に応じて異なるシェイピング手法で音色が変化します。



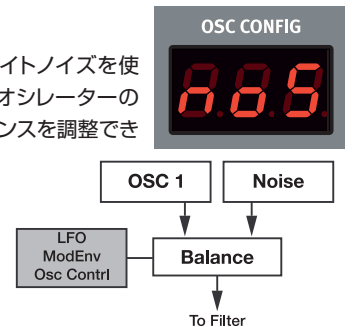
Sync(シンク)

Syncでは、“裏”オシレーター(図の「Sync Osc」)を使用して1970年代以降のシンセ・サウンドでよく見られたハード・シンクを再現した構成です。オシレーター・シンクにより強烈なピークが立ち、刻々と変化していく倍音構成が特徴的です。



Noise(ノイズ)

Noiseでは、1オシレーターとホワイトノイズを使用できます。[OSC CTRL]ノブでオシレーターの音とホワイトノイズのミックス・バランスを調整できます。



2オシレーター・コンフィギュレーション

Detune(デチューン)

Detuneはオシレーターを2つ使用した構成で、オシレーター2のピッチを微妙にズラしたり、半音単位のインターバルにすることができます。基本アナログ、拡張アナログ、フィクスト・パルスの各波形を選択した場合、2つのオシレーターは同じ波形を使用します。その他の波形を選択した場合、オシレーター1はサイン波になります。[OSC CTRL]ノブでオシレーター2のピッチを微妙なデチューンから最大60半音(5オクターブ)の範囲で調整できます。



サイン波、三角波、ノコギリ波、矩形波ミックス

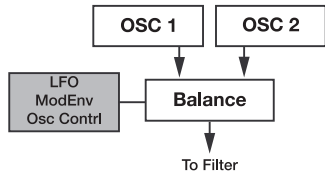


このミックス・コンフィギュレーションでは、オシレーター2の波形とピッチ・インターバルを選択できます。

オシレーター・コンフィギュレーションのディスプレイ上にオシレーター2の波形とインターバルが表示されます。先頭の2文字が波形、数字がオシレーター1のピッチに対するインターバルをそれぞれ表します。以下の表はその一例です：

5A.1	1オクターブ下
8A.1	同ピッチ
9A.2	1オクターブ上
5A.3	3度上
5A.4	2オクターブ上
5A.5	5度上
5A.6	6度上
5A.7	7度上
5A.8	3オクターブ上

❶ オシレーター1の波形はウェーブフォーム・ダイヤルで選択できます。

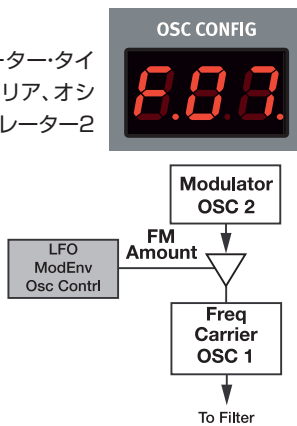


モジュレーション・コンフィギュレーション

FM(周波数変調)

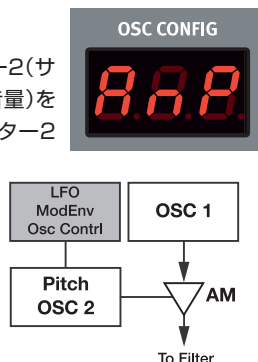
FMコンフィギュレーションは2オペレーター・タイプのFM音源で、オシレーター1がキャリア、オシレーター2がモジュレーターになり、オシレーター2のピッチでオシレーター1のピッチを変調します。(OSC CTRL)ノブでオシレーター2のピッチを、-12(1オクターブ下)から+48(4オクターブ上)の範囲で半音単位で調整できます。

FMシンセシスはシンプルな波形を素材に非常に複雑な倍音構成の波形を作り出せるパワフルな手法です。また、FMシンセシスはオペレーター同士の周波数比によって音程感のハッキリとした整数次倍音だけでなくノイズに近い非整数次倍音を作り出すことも可能です。FMシンセの代表格と言えばやはり1980年代中期に一世を風靡したDX7でしょう。



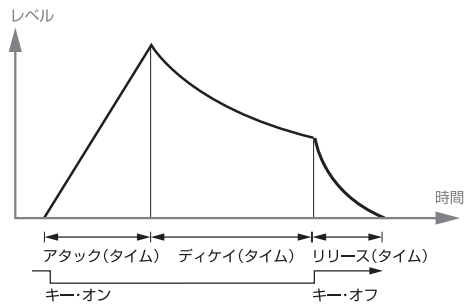
AM(振幅変調)

AMコンフィギュレーションではオシレーター2(サイン波)のピッチでオシレーター1の振幅(音量)を変調します。(OSC CTRL)ノブでオシレーター2のピッチを調整できます。



アンプ・エンベロープ

Nord Lead A1のアンプ・エンベロープはADR(アタック、ディケイ、リリース)/ASR(アタック、サステイン、リリース)の3ステージ・タイプで、音量の時間的な変化をコントロールします。エンベロープでアンプをモジュレーションすることにより、音の鳴り始めから鳴り終わりまでの時間的な変化を作り出します。この音量の時間的な変化は音色にとって非常に重要な要素の1つで、エンベロープの設定により短く詰まった音や、長く伸びた音など、様々な音をデザインできます。



〔ATTACK〕ノブ

アタックは、鍵盤を弾いた瞬間(またはMIDIノート・メッセージを受信した瞬間)からエンベロープのレベルが最大になるまでの時間を設定するパラメーターです。

レンジ: 0.5ms~45s

〔DECAY〕ノブ

ディケイは、アタックの段階で最大に達したレベルがゼロに向かって下がるまでの時間を設定するパラメーターです。このノブが時計回りいっぱい状態では、レベルが下がらず鍵盤を押し続けている間は最大レベルをそのままキープします。

レンジ: 0.5ms~45s、サステイン

〔RELEASE〕ノブ

リリースは、鍵盤から手を離れた瞬間からエンベロープのレベルがゼロになるまでの時間を設定するパラメーターです。エンベロープがどのアタックの途中など、どの段階にあっても鍵盤から手が離れることで瞬時にリリースの段階に移行します。

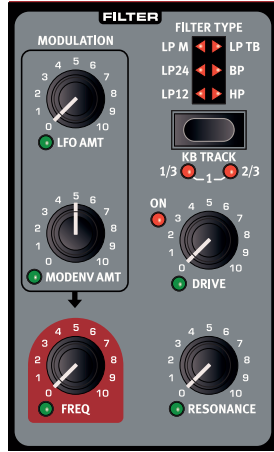
レンジ: 3.0ms~45s

〔ENV VEL〕ノブ

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔RELEASE〕ノブを回すと、アンプ・エンベロープに対するタッチセンス(ペロシティ)量を調整できます。これにより、鍵盤を弾くタッチの強弱で本機の音量をコントロールできます。

フィルター

フィルターは音色作りに欠かせない非常に重要なパートの1つです。オシレーターで作り出した豊富な倍音を含んだ音を加工するのがフィルターの役割で、フィルター・フリクエンシーを様々な機能でモジュレーションすることで、音色の時間的な変化を作り出すことができます。Nord Lead A1のフィルターはトラディショナルな2タイプのローパス、バンドパス、ハイパスの4タイプに加え、ローパスM、ローパスTBというビンテージ・シンセ2機種に搭載されていたフィルターを再現したモデルも内蔵しています。



① 2つのビンテージ・フィルターはその特性を再現しただけでなく、レゾナンスやオリジナルの回路内部で発生していた歪み、エンベロープによる変化の仕方も忠実に再現しています。

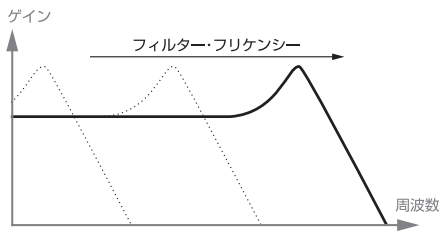
これらの6タイプのフィルターは、すべて同じパラメーター構成になっています。(FREQ)ノブでカットオフ・フリクエンシー、(RESONANCE)ノブでレゾナンスをそれぞれコントロールできます。(DRIVE)ノブはフィルター回路内部で発生する歪みの深さを調整でき、(MOD ENV AMT)でモジュレーション・エンベロープによる変化量を、(LFO AMT)ノブでLFOによるモジュレーションの深さをそれぞれ調整します。

(FREQ)ノブ

(FREQ)ノブでフィルターのカットオフ・フリクエンシー、つまりフィルターが入力信号のどの帯域からカットし始めるか、そのポイントを調整します。

レンジ: 14Hz~35kHz

右の図はローパス・フィルターのフィルター・フリクエンシー(カットオフ・フリクエンシー)の設定を3パターン並べて示したものです。右下へ下がっていくスロープのさらに右側の帯域(高音域)の音はフィルターによりカットされます。



(RESONANCE)ノブ

レゾナンスには、フィルター・フリクエンシー付近の帯域を強調させる機能があります。ローパス・フィルターの場合、レゾナンスを上げていくとカットオフ・フリクエンシー付近の帯域の音が強調され、それ以外の帯域の音は逆に弱められます。

さらにレゾナンスを上げていくと、あるポイントからオシレーターの音に共鳴して別の音が鳴っているように聴こえ始めます。フィルターのタイプによってはレゾナンスを高い設定にするとフィルターが発振します。

(LFO AMT)ノブ

LFOによるフィルター・フリクエンシーのモジュレーション量を調整します。

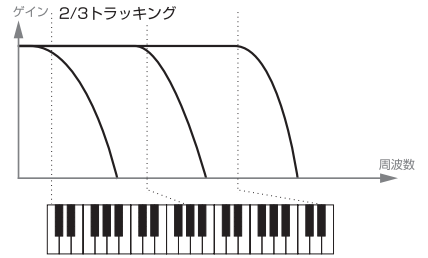
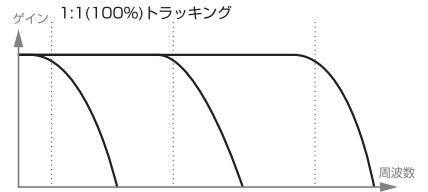
(MOD ENV AMT)ノブ

モジュレーション・エンベロープによるフィルター・フリクエンシーのモジュレーション量を調整します。

(KB TRK)ボタン

キーボードトラック機能は、鍵盤上で弾いた音程にフィルター・フリクエンシーを追従させることができる機能です。

例えば、オシレーターのピッチが高い場合、音としては高音域の周波数成分が多くなります。この時、フィルター・フリクエンシーがオシレーターが発している音域と関係なく一定だった場合、高音域に行けば行くほど音色全体が丸く柔らかな音になってしまいます。



- キーボードトラックがオフ(LED全消灯)の場合、フィルター・フリクエンシーは演奏する音程に対して何も反応しません。
- キーボードトラックが「1/3」(「1/3」LEDのみ点灯)の場合、演奏する音程の変化に対して1/3の割合でフィルター・フリクエンシーが追従します。
- キーボードトラックを「2/3」(「2/3」LEDのみ点灯)の設定にすると、演奏する音程の変化に対して2/3の割合でフィルター・フリクエンシーが追従します。
- キーボードトラックをフルの設定、つまり「1」(「1/3」、「2/3」LEDの両方が点灯)にすると、鍵盤上で演奏する音程とフィルター・フリクエンシーが完全に対応した状態になります。

(DRIVE)ノブ

(DRIVE)ノブはフィルター内部で発生する歪みの深さを調整でき、穏やかな歪みから深く激しい歪みまで自在に調整できます。ドライブ機能がオンになると、ノブの左上のLEDが点灯します。



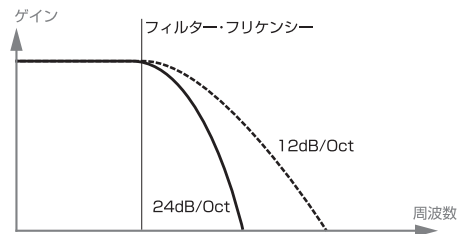
☀ レゾナンスを高く設定した状態でドライブ機能を使用するとどんな音になるか、ぜひ試してみてください。

(FILTER TYPE)ボタン

このボタンで全6タイプのフィルターから1つを選択します。

LP12、LP24

LP(ローパス)はフィルター・フリクエンシーよりも高音域の成分をカットする特性のフィルターです。12、24はフィルター・スロープで、それぞれ24dB/oct、12dB/octを指し、LP24のほうがLP12よりも高域成分のカットに優れた特性になります。



LP M

あのミニ〇〇〇に搭載されていたトランジスター・フィルターを再現したものです。今でも広く愛用されている革命的なフィルターは、1960年代にロバートAモーグ博士が設計し、特許を取得した回路です。LP Mは4ポール、つまり24dB/octのレゾナンス付きローパス・フィルターで、レゾナンスを上げて一般的な24dB/octローパス・フィルターよりも低域が失われにくい特徴があります。また、回路内部の歪み、フィルター、アンプ・エンベロープによる変化特性も忠実に再現しています。

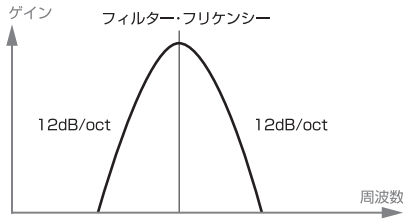
LP TB

LP TBは、1982年に発売されたTB-303のダイオードによるラダー・フィルターのエミュレーションです。この4ポール、24dB/octローパス・フィルターは、他では決して聴かれない特徴的なサウンドです。ファンキーでクセのあるキャラクターながら、他のローパス・フィルターのようにレゾナンスをフルに上げて自己発振をしません。

また、フィルター・フリケンシーが低い状態ではレゾナンス量が大幅に下がるのも、このフィルターの大きな特徴です。

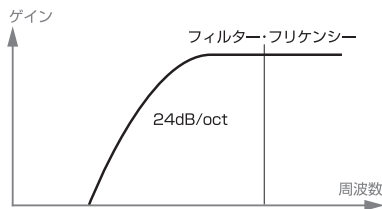
BP

BPはバンドパスの略です。バンドパス・フィルターは、フィルター・フリケンシー付近の帯域のみを通過させ、それ以外の帯域の音を弱める特性があります。Nord Lead A1のバンドパス・フィルターは12dB/octの特性でフィルター・フリケンシーの高域、低域成分の両方をカットします。



HP

HPはハイパスの略です。ハイパス・フィルターはフィルター・フリケンシー以上の高域を通過させ、それ以下の低域成分を弱める特性があります。本機のハイパス・フィルターは24dB/octの特性です。

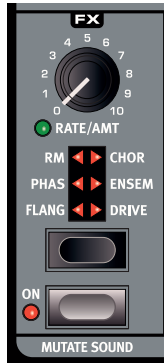


FXセクション

Nord Lead A1は豊富なエフェクトを内蔵し、シンセ・サウンドをうっすらと色づけたり、大胆に加工したりすることが自在に行なえます。

FLANG

フランジャーは2つの同一サウンドをミックスし、片方のサウンドをわずかに遅らせ（一般的には20ms以下の範囲で）、その幅をゆっくりと変化させるエフェクトです。また、遅らせたサウンドにはフィードバックもかかります。これにより発生するコムフィルター効果により、独特の金属的なサウンドになります。本機のフランジャーはビンテージのMXR™フランジャーを再現したものです。



PHAS

フェイザーは入力したオーディオ信号を2つに分岐し、1つは位相を変化させるフィルターに通します。この時の位相の変化量はフィルター周波数によって変化します。位相を変化させた信号と元の信号をミックスすることにより、位相が干渉してオーディオ信号の所々の帯域のレベルが非常に低くなります。これがフェイザー独特のサウンドになります。Nord Lead A1のフェイザーは、ビンテージのMuTron™フェイザーを再現しています。

RM

RMはリング・モジュレーションの略です。このエフェクトは、入力信号を別の信号と掛け合わせることで音を変化させます。本機のリング・モジュレーションでは、フィルター/アンプからのオーディオ信号をサイン波と掛け合わせ、[RATE/AMT]ノブでサイン波の周波数を調整できます。この周波数が低い状態ではトレモロのようなエフェクトになり、高い状態では入力信号の倍音構成とピッチ感が大きく変化します。

CHOR

コーラスは、入力信号をわずかに遅らせ、LFOでピッチ・モジュレーションをかけた信号(1つまたは2つ)を原音にミックスするエフェクトです。基本原理はフランジャーと同じですが、入力信号を遅らせるディレイ・タイムがフランジャーよりも長く、それにより穏やかなサウンドになります。また、Nord Lead A1のコーラスは、ステレオ・アウトです。

ENSEM

Nord Lead A1のアンサンブル・エフェクトは、ビンテージのEminentオルガンに搭載されていたものを再現しています。その非常に特徴的なサウンドは、入力信号を3系統に分岐し、ディレイ・ラインでそれぞれのモジュレーション信号が交差接続する周期でピッチ・モジュレーションをかけ、最後に3つの信号をミックスすることで得ていました。本機のアンサンブルはステレオ・アウトです。

DRIVE

ドライブはチューブ・アンプをオーバードライブさせるのと同様、オーディオ信号を歪むまで増幅するエフェクトです。これにより暖かみのあるサウンドになる非対称のソフト・クリッピングが発生して偶数次倍音が増大し、幅広い音色で使用できるのも特徴です。

(MUTATE SOUND) ボタン

フォーカスされているスロットの音色をベースにバリエーション音色を自動的に作成するミュテーター機能を使用する際に、このボタンを押します。詳しくは15ページをご参照ください。

DELAYセクション

ディレイ・セクションは、ディレイ・タイムが短いスラップバック・エコーやロング・ディレイなどのディレイ・エフェクトをかける際に使用します。ディレイ・タイムをマスター・クロックに同期させることができ、アルペジエーターやLFOと組み合わせてリズム的なサウンドを作り出せます。

このセクションでは4段階のフィードバック設定、[DRY/WET]ノブによるディレイ成分のバランス調整、[TEMPO]ノブでディレイ・タイムの設定が行えます。ディレイ音が左右に飛び交うピンポン・モードも内蔵しています。

また、[TEMPO]ノブを回すとディレイ音のピッチが変化するアナログ・モードも内蔵しています。



(TEMPO) ノブ

このノブでディレイ・タイムを設定します。マスター・クロックと同期している場合は、音符単位でディレイ・タイムを選択できます。

レンジ: 20ms~1500ms

音符	内容
2, 4, 8, 16, 32, 64	2分音符~64分音符
4d, 8d, 16d	付点4分音符~付点16分音符
2t, 4t, 8t, 16t, 32t	2分音符三連~32分音符三連
4s, 8s, 16s	4分音符~16分音符のスウィング

① 音符単位でディレイ・タイムを設定する場合、上記のように各音符(設定値)がグルーピングされておらず、聴感上の音の長さの順に並んでいます。そのため、「4d」は「2t」の前にあり、「4s」は「4」の前にあり、「4t」は「4」の後にあり、といった並びになっています。

〔TAP TEMPO〕ボタン

〔TAP TEMPO〕ボタンを数回タップすると、ディレイ・タイムを設定できます(タップ・テンポ機能)。このボタンを4回タップすることでディレイ・タイムを設定でき、それ以降回数続けてタップすると設定がより正確になります。

〔FEEDBACK〕ボタン

ディレイ・フィードバック(ディレイ音の繰り返し量)をこのボタンで設定します。設定は繰り返し1回のみ(LED全消灯)から、最大は「1」、「2」のLEDが点灯する状態までの4段階から選択できます。

〔PING PONG〕ボタン

ディレイ音が左右を交互に飛び交うピンポン・モードを使用する際に、このボタンを押します(〔SHIFT〕+〔PING PONG〕)。

〔DRY/WET〕ノブ

ディレイ成分と原音のバランスを取ります。

☞ 〔DRY/WET〕ノブはミキサーのセンドのような信号経路になっています。そのため、モーフ機能でこのノブを完全なドライ(原音のみ)にしても、その時に鳴っていたディレイ成分は途切れることはありません。

ディレイ・モード(サウンド・メニュー)

サウンド・メニューのディレイ・モードで、アナログまたはノーマルに切り替えることができます。アナログ・モードでは、ディレイ・タイムを変更するとその場でディレイ音のピッチが変化します。ノーマル・モードではディレイ音のピッチは変化しません。

〔ON〕ボタン

ディレイ・セクションのオン/オフ切替をします(オン時にLED点灯)。

〔RANDOMIZE SOUND〕ボタン

ランダムイズ・サウンド機能を使用する際にこのボタンを押します。この機能は、ほとんどの音色パラメーターをランダムに変更して新しい音色を自動的に作成する機能です。詳しくは、15ページをご参照ください。

アウトプット・セクション

〔LEVEL〕ノブ

プログラムの音量を調整します。このパラメーターでの設定はプログラムの一部として保存されます。



〔PAN〕ノブ

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔LEVEL〕ノブを回すと、パンニングを調整できます。定位がセンター以外になるとLEDが点灯します。

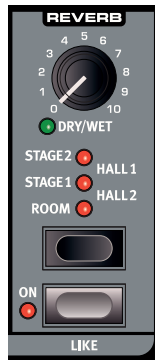
リバーブ・セクション

リバーブは、数種類の音響空間をシミュレートしたナチュラルな残響音をプラスできるエフェクトです。

〔DRY/WET〕ノブ

リバーブ音と原音のバランスを取ります。

☞ 〔DRY/WET〕ノブはミキサーのセンドのような信号経路になっています。そのため、モーフ機能でこのノブを完全なドライ(原音のみ)にしても、その時に鳴っていたリバーブ成分は途切れることはありません。



リバーブ・セレクト・ボタン

リバーブ・タイプを選択する際にこのボタンを押します。タイプは次の通りです：

タイプ	内容
ROOM	減衰の早い、小空間のルーム・アンビエンス。
STAGE1	中規模の減衰のステージ・アンビエンス。メロウな質感。
STAGE2	中規模の減衰のステージ・アンビエンス。ブライトな質感。
HALL1	ホール空間の残響をシミュレートした長い減衰のリバーブ。メロウなキャラクター。
HALL2	ホール空間の残響をシミュレートした長い減衰のリバーブ。ブライトなキャラクター。

〔ON〕ボタン

リバーブ・セクションのオン/オフ切替をします。

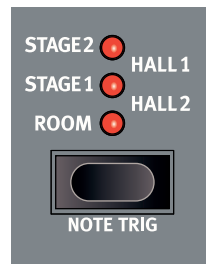
〔LIKE〕ボタン

プログラムやパフォーマンスをライク・メモリーにセーブする際にこのボタンを使用します。ライク・メモリーはプログラム、パフォーマンスの各モードで独立し、それぞれ最大50個までセーブできます。51個目をセーブすると、1個目のライク・メモリーを消去してそこにセーブします。ライク機能は、例えば音作りの途中で気に入った音色を一時的にセーブしておく場合などに便利です。なお、ライク・メモリーは本機の電源をオフにするとすべて消去されますのでご注意ください。詳しくは、15ページをご参照ください。

〔NOTE TRIG〕ボタン

(Nord Lead A1Rのみ)

〔SHIFT〕ボタンを押しながらこのボタンを押すと、Nord Lead A1Rを発音させることができます。発音する音程は、このボタンを押しながらプログラム・ダイヤルを回して変更できます。



8 マスター・クロック



マスター・クロック

マスター・クロックは、Nord Lead A1のアルペジエーター、LFO、ディレイを1つのテンポに同期させることができる機能です。マスター・クロックは30～300BPMの範囲でテンポ設定ができ、設定はプログラム・ダイヤルを回す、または〔SLOT D/MST CLK〕ボタンをタップ・テンポの要領でタップすることで行えます。

マスター・クロック機能でのテンポ設定はグローバル設定ですので4つのスロットすべてに適用されます。これによりすべてのスロットでテンポに合ったリズム的な音作りを行えます。また、スロットごとにマスター・クロックへの同期オン/オフを設定できます。

マスター・クロック機能がオンの場合、アルペジエーターやLFO、ディレイの〔RATE〕、〔TEMPO〕の各ノブは、マスター・クロックのテンポに対して音符単位でスピードや周期、ディレイ・タイムを設定できます(クロック分割)。設定可能な音符は、次の通りです：

音符	内容	使用可能セクション
4b, 2b, 1	4小節、2小節、1小節	LFO
2, 4, 8, 16, 32, 64	2分音符～32分音符 (LFO、ディレイでは64分音符も使用可能)	アルペジエーター、LFO、ディレイ
4d, 8d, 16d	付点4分音符～付点16分音符	ディレイ
4bt, 2bt, 1t	4小節三連～1小節三連	LFO
2t, 4t, 8t, 16t, 32t	2分音符三連～32分音符三連	アルペジエーター、LFO、ディレイ
4s, 8s, 16s	4分音符～16分音符スウィング	ディレイ

各音符は上記のようにグルーピングされておらず、聴感上の音の長さの順に並んでいます。そのため、ディレイのテンポをマスター・クロックに同期させ、ディレイ・テンポ(タイム)を音符単位で設定する場合、4分音符三連が付点8分音符と8分音符スウィングに間に並んでいます。

MIDIクロックとの同期

マスター・クロックは、本機がMIDIクロックを受信すると自動的にMIDIクロックに同期します。MIDIクロックと同期している状態で、〔MST CLK〕ボタンを押すと、その時のテンポがディスプレイに表示されます。

- ❶ MIDIクロックと同期している時に、マスター・クロックのテンポを手動で変更しようとする、ディスプレイに“E.CI”(外部クロック)と表示されます。

アルペジエーターでマスター・クロック機能を使用する

アルペジエーターでマスター・クロック機能を使用すると、次のようなことができます：

- 〔SHIFT〕ボタンを押しながらアルペジエーターの〔RATE〕ノブを回します。すると、〔MST CLK〕LEDが点灯します。
- キーボードでコードなどを押さえて、〔RUN〕ボタンを押してアルペジオがスタートさせます。この時、〔RUN〕LEDが点灯します。
- 〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔HOLD〕ボタンを押すと、キーボードから手を離してもそのままアルペジオ演奏が続きます。
- 〔RATE〕ノブを回すと、アルペジオの音符が変わります。音符を変更してスピードが変化する様子を聴いてみましょう。音符を4分音符(ディスプレイに「4」と表示されます)に設定します。
- 〔SHIFT〕ボタンと〔MST CLK〕ボタンを押しながら、プログラム・ダイヤルを回してテンポを変更します。この時、〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔MST CLK〕ボタンを数回タップしてテンポを設定することも可能です(最低4回のタップが必要になります)。
- アルペジオ演奏を聴きながらフィルターやエンベロープのセッティングを変えてみましょう。

〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔RANGE〕ボタンを押してアルペジオ・パターンを切り替えてみましょう。〔RANGE〕ボタンで1～4オクターブに渡るアルペジオにすることもできますが、ここでは1オクターブにしておきます。そのままのセッティングで、次のページの実験もぜひトライしてみてください。

ディレイを同期させる

前ページのセッティングのまま、今度はディレイを追加してみましょう：

- ① ディレイ・セクションの〔TEMPO〕、〔WET/DRY〕の各ノブを左いっぱい(ゼロ)に回しておきます。フィードバックのLEDは「1」が点灯している状態にセットします。
- ② ディレイの〔ON〕ボタンを押してディレイ・セクションをオンにし、〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔TAP TEMPO〕ボタンを押してマスター・クロックに同期させます。
- ③ ディレイの〔TEMPO〕ノブを回して付点8分音符(ディスプレイに「8d」と表示されます)を選択し、〔DRY/WET〕ノブを右へ徐々に回してディレイ音をミックスしていきます。

この時、アルペジオは4分音符で演奏し、そのディレイ音は付点8分音符のタイミングで繰り返します。このまま、次の実験もトライしてみましょう。

LFOを同期させる

- ④ 今度はLFOの周期をマスター・クロックに同期させます。〔SHIFT〕ボタンを押しながらLFOの〔RATE/TIME〕ノブを回します。
- ⑤ LFOの波形は三角波を選択します。
- ⑥ フィルター・セクションの〔LFO AMT〕ノブを少し上げてLFOでフィルター・フリケンシーをモジュレーションします。
- ⑦ LFOの〔RATE〕ノブを回して2小節(ディスプレイに「2b」と表示されます)にセットし、フィルターの〔LFO AMT〕ノブを12時の位置よりもわずかに下がった位置にセットします。この時、フィルター・フリケンシーが何も反応していないようでしたら、〔FREQ〕ノブを少し下げてください。

この状態で、4分音符のアルペジオ演奏に付点8分音符のディレイ、そして2小節周期のLFOがすべて同期しています。

- ⑧ 〔MST CLK〕ボタンを押しながらプログラム・ダイヤルを回してみます。するとマスター・クロックのテンポが変わり、アルペジオ、ディレイ、LFOもそれと同期してスピードやテンポ、周期が変化します。
- ❗ マスター・クロックのテンポ設定は、パフォーマンスの一部として保存されます(パフォーマンス・モードのパラメーターです)。

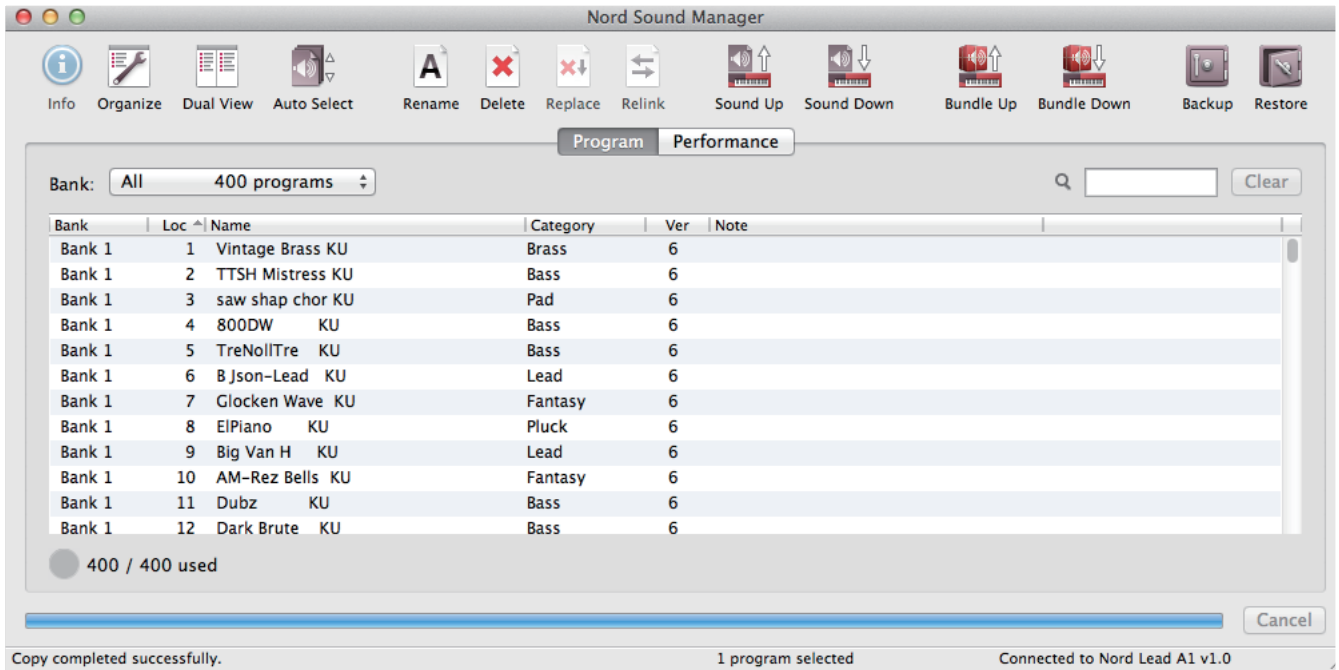
複数のスロットでも同期可能

パフォーマンス1つにつきマスター・クロックのテンポを1つ設定できます。また、1パフォーマンス内のすべてをスロットをマスター・クロックに同期させることができます。

キーボード・シンク機能(サウンド・メニュー)

サウンド・メニューのセッティング“MST CLK KBD SYNC”(マスター・クロック・キーボード・シンク)を使用すると、キーボードを弾くタイミングがマスター・クロックのテンポと合っていない場合でも、弾いたタイミングから改めてマスター・クロックのテンポをリセットさせることができます。この機能には「オン」と「ソフト」の2タイプがあり、「ソフト」の場合はキーボードを弾いたタイミングから最も近いビートにわずかにクロックがリセットします。また、この機能をオフにすることもでき、その場合はキーボードを弾くタイミングと関係なく、マスター・クロックが動作します。

9 Nord Sound Manager



Nord Sound Manager(ノード・サウンド・マネジャー)は、Nord Lead A1のメモリー・エリアにアクセスし、プログラムやパフォーマンスの並べ替えや新しいプログラム/パフォーマンスをコンピュータから本機へ転送したり、逆に本機からプログラム/パフォーマンスなどのデータをコンピュータに転送してバックアップを取ったり、バックアップ・ファイルの本機への転送(レストア)などが行える、メモリー管理フリーウェアです。

Nord Sound Managerの詳細い説明書やUSBドライバーのインストール・インストラクションは、Nord ウェブサイト(<http://www.nordkeyboards.com>)のダウンロード・エリアから入手できます。

動作環境

Nord Sound ManagerはMac OS X 10.4以降、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8の各OSを使用しているコンピュータ上で動作します。また、Windowsの各OSのPCをご使用の場合はClavia USB Driver v.3.02以上をインストールする必要があります。このドライバーはSound Manager Setupアプリケーションが自動的にインストールします。

10 メニュー

Nord Lead A1にはシステム、MIDI、サウンドの各メニューがあり、ここで本機の様々な設定を行えます。各メニューでの設定は、特に保存などの操作をすることなく変更後すぐに反映され、次回に変更するまでその設定がキープされます。各メニューには〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SYSTEM〕、〔MIDI〕、〔SOUND〕〔〔SLOT A〕、〔SLOT B〕、〔SLOT C〕〕ボタンのいずれかを押すとそのメニューに入り、入ったメニューのボタンの上のLEDが黄色に点滅します。各メニュー内の機能はプログラム・ダイヤルを回して選択し、各機能の設定は〔SHIFT〕ボタンを押しながらプログラム・ダイヤルを回して変更します。メニューから抜けるにはスロット・ボタン(A~D)のいずれか(どれでも構いません)を押します。

システム・メニュー

1 - メモリー・プロテクト

メモリー・プロテクトは、プログラムやパフォーマンスの保存可能/不可能を設定する機能です。工場出荷時の設定(デフォルト)では「On」になっています。

- ① システム、MIDI、サウンドの各メニューの設定はプロテクト対象外です。
レンジ: On(デフォルト)、Off

2 - トランスポーズ

本機のピッチを半音単位で上下にトランスポーズ(移調)させる機能です。

- ① MIDI出力はトランスポーズしません。
レンジ: ±6半音(デフォルト = 0)

3 - ファイン・チューン

本機のチューニングを微調整します。

レンジ: ±50セント(デフォルト = 0)

4 - サスティン・ペダル・ポラリティ

サスティン・ペダルの極性を切り替えます。接続したサスティン・ペダルの動作が逆(踏んでいない時に音が伸びてしまう)の時に、この設定を変更します。「Auto」に設定するとペダルを接続した時に自動的にペダルに合った極性で動作します。

レンジ: Auto(デフォルト)、CL(クローズ)、OP(オープン)

5 - ホイール・モード

モジュレーション・ホイールの機能を、モーフ機能のコントローラー兼ビブラート、またはビブラート専用のどちらかを選択できます。

レンジ: L1(モーフ+ビブラート: デフォルト)、L2(ビブラート専用)

6 - コントロール・ペダル・モード

コントロール・ペダル(エクスプレッション・ペダル)を接続した時に、ペダルの機能をモーフ機能のコントローラー、またはボリューム・ペダルのどちらかを選択できます。

レンジ: P1(ボリューム: デフォルト)、P2(モーフ)

7 - コントロール・ペダル・タイプ

コントロール・ペダル(エクスプレッション・ペダル)はメーカーや機種によって抵抗値やオフセット値、カーブなどの仕様が異なります。本機では主要なペダル・メーカーや機種に合わせたプリセットを内蔵し、お使いのペダルに合った設定を選択できます。

レンジ: Y7(Yamaha FC-7)、R5(Roland EV-5:デフォルト)、R7(Roland EV-7)、K0(KORG EXP-2、XVP-10)、Ft(Fatar、Studiologic VP/25)

8 - コントロール・ペダル・ゲイン

お使いのコントロール・ペダル(エクスプレッション・ペダル)を踏み込んだ状態にしても、コントロールするパラメーターが最大値にならない場合、この機能でペダルの出力レベルが0~100(ディスプレイに表示されます)になるようにゲインの調整をします。

レンジ: 1~10(デフォルト = 1)

9 - ミューテーター・プロテクト

この機能が「On」の場合、ミューテーター機能やランダムイズ・サウンド機能にプロテクトされ、これらの機能を実行する前に〔EXECUTE〕ボタンを押して実行する必要があります。

レンジ: On、Off(デフォルト)

A b c d - スロット・アウトプット・ルーティング

A~Dの各スロットのオーディオ・アウトの出力先を設定します。各スロットの出力先は1~4の各オーディオ・アウト、またはペア(1-2、3-4)から選択できます。

- △ アウトプット1と2を選択した場合はヘッドフォンにも出力されます。
レンジ: 12(デフォルト)、34、1、2、3、4

MIDIメニュー

G - グローバルMIDIチャンネル

キーボードやペダル、パネル上のコントロールなどのMIDIメッセージに関する送受信チャンネルを設定します。

レンジ: 1~16, Off(デフォルト = 1)

A, b, c, d - スロットMIDIチャンネル

スロットごとに個別のMIDIチャンネルを設定する時にこの機能を使用します。

レンジ: 1~16, Off(デフォルト: A = off, B = off, C = off, D = off)

t - ソフト・スルーMIDIチャンネル

この機能で設定したMIDIチャンネルのノート・オン/オフ・メッセージやMIDIクロックを本機のMIDI IN端子、USBポートから受信すると、MIDI OUT端子、USBポートからスルーさせることができます。

レンジ: 1~16, Off(デフォルト = 10)

1 - ローカル・コントロール

ローカル・コントロールは本機の音源部とパネルやキーボードなどのコントロール部との接続をオン/オフする機能で、ローカル・オンでコントロール部と音源部が接続されます(デフォルト設定)。本機を外部シーケンサーに接続し、本機からはパネルやキーボードなどのコントロール部からのMIDIメッセージを送信し、外部シーケンサーからノート・データなどのMIDIメッセージを本機で受信する場合は、ローカル・オフにすると便利です。

レンジ: On(デフォルト)、Off

ローカル・コントロールは、本機の電源投入時に必ず「On」になります。

2 - コントロール・チェンジ(CC)モード

本機のパネル上のノブやボタンのMIDIコントロール・チェンジ・メッセージの送受信設定をこの機能で行います。

レンジ: Sr(送受信する: デフォルト)、r(受信のみ)、S(送信のみ)、Off

3 - プログラム・チェンジ・モード

本機のMIDIプログラム・チェンジ・メッセージの送受信設定を行います。

レンジ: Sr(送受信する: デフォルト)、r(受信のみ)、S(送信のみ)、Off

4 - ピッチ・ベンド・モード

本機のピッチ・スティックに対するMIDIピッチ・ベンド・メッセージの送受信設定を行います。

レンジ: Sr(送受信する: デフォルト)、r(受信のみ)、S(送信のみ)、Off

5 - センドCC

その時選択しているプログラムのパラメーター・データをMIDIコントロール・チェンジ・メッセージの形式で送信する際に、この機能を使用します。(EXECUTE)ボタンを押すと送信が始まります。

6 - ダンプ・ワン

その時選択しているプログラムまたはパフォーマンスのパラメーター・データをMIDIシステム・エクスクルーシブの形式で送信する際に、この機能を使用します。(EXECUTE)ボタンを押すと送信が始まります。

7 - ダンプ・プログラム・バンク

その時選択しているプログラムまたはパフォーマンスが入っているバンク全体のパラメーター・データをMIDIシステム・エクスクルーシブの形式で送信する際に、この機能を使用します。(EXECUTE)ボタンを押すと送信が始まります。

システム・エクスクルーシブ・ダンプの受信方法につきましては、32ページの「MIDIダンプ」をご参照ください。

サウンド・メニュー

1 - マスター・クロック・キーボード・シンク

この機能が「On」の場合、キーボードを弾いたタイミングでマスター・クロックがリセットされます。「SF」(ソフト)設定の場合、キーボードを弾いたタイミングとその時のマスター・クロックのビートがシンクします。

レンジ: Off, SF(ソフト: デフォルト)、On

2 - デイレイ・モード

この機能は、デイレイ・セクションの〔TEMPO〕ノブを回した時の、デイレイ音の鳴り方を設定する機能です。「An」(アナログ)の場合、往年のアナログ・デイレイと同様、〔TEMPO〕ノブを回した時にデイレイ音のピッチが変わりながらデイレイ・タイムが変わります。「n0」(ノーマル)に設定した場合は、デイレイ音のピッチが変わることなくデイレイ・タイムが変わります。

レンジ: n0(ノーマル)、An(アナログ: デフォルト)

3 - ビブラート・レイト

ビブラートの周期を設定します。

レンジ: 4.00~8.00Hz(デフォルト = 6.00Hz)

4 - ビブラート・アマウント

デイレイ・ビブラート使用時のビブラートの深さを設定します。

レンジ: 0~50セント(デフォルト = 12セント)

11 MIDI

Nord Lead A1のMIDI動作

本機は非常に柔軟なMIDIの各種設定が行えます。本機のキーボードで内部音源はもちろんのこと、外部のハードウェア/ソフトウェア音源などをコントロールすることも可能です。また、4つのスロットは個別にMIDIチャンネルを設定して外部シーケンサーからコントロールすることができ、4パートのマルチティンバー音源としても使用できます。

本機のMIDI設定には、大別すると2つの大きな流れがあります。1つはグローバルMIDIチャンネル、もう1つはスロットMIDIチャンネルです。それぞれで機能が異なりますので、用途に合わせてご使用ください。

	MIDI IN	MIDI OUT
グローバルMIDI	○	○
スロットMIDI	○	

本機のキーボードやパネル上のコントロールからのMIDIメッセージは、グローバルMIDIチャンネルで出力されます。

スロットMIDIチャンネルは、MIDIメッセージを受信用です。

- ❶ 本マニュアルでは、「キーボード」と表記した場合、Nord Lead A1のキーボードの他に、外部MIDIキーボード・コントローラーを指すこともあります。

MIDIの各種設定

MIDIチャンネルの設定や、プログラム・チェンジ、ピッチ・ベンド、コントロール・チェンジ、その他MIDIに関する各種設定は、MIDIメニューで行います。

グローバルMIDIチャンネル

本機からのMIDIノート・データやコントロール・チェンジ・メッセージは、グローバルMIDIチャンネルを通じて送信されます。また、受信する際もグローバルMIDIチャンネルで受信できます。

グローバルMIDIチャンネルでMIDIメッセージを受信した場合、オンになっているすべてのスロットがそれに反応します。この時、レイヤーやスプリット機能を使用しているパフォーマンスを選択している場合、またはモーフ機能を使用した音色を使用している場合、本機のキーボードで演奏している時と同様のコントロールを行えます。

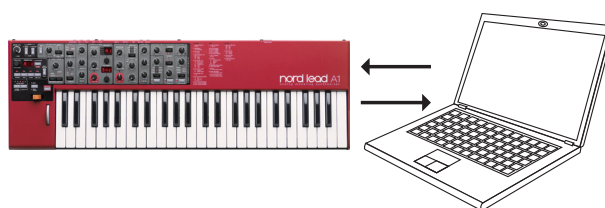
スロットMIDIチャンネル

本機の4つのスロットがそれぞれ独立したシンセサイザーのようにノート・データやコントロール・チェンジを受信させて使用する場合は、スロットMIDIチャンネルを使用します。これにより、本機を4パートのマルチティンバー音源として使用できます。

- ⚠ パフォーマンス・モードでスロットMIDIチャンネルを使用する場合は、必ずしも全スロットをオンしておく必要はありません。オフになっているスロットも、そのスロットに対応するスロットMIDIチャンネルを受信すると反応します。このことを利用して、キーボードで弾くスロットだけをオンにし、その他のスロットはシーケンサーなどの外部MIDI機器からコントロールするといったことができます。

シーケンサーを使う:グローバルMIDIチャンネル

本機とコンピュータ、MIDIインターフェイス、またはシーケンサーをUSBケーブル(またはMIDIケーブル)で接続し、シーケンサーのトラックを「All Channel」またはMIDIチャンネル1に設定します(本機のグローバルMIDIチャンネルと同じチャンネルに設定にします)。



この設定で、本機での演奏(キーボードやモーフ機能やペダルでのコントロールを含むパネル上のコントロール)がMIDIメッセージとしてシーケンサーに送信されます。

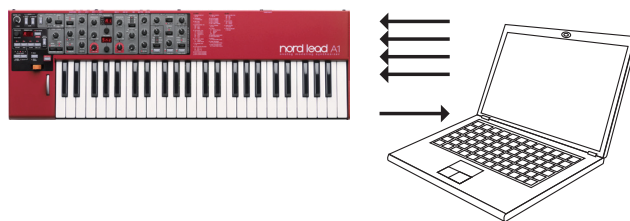
パラメーターの動きをレコーディングする

本機の各スロットのパラメーターは、MIDIコントロール・チェンジで規定されているパラメーター数よりも多くのパラメーターがあります。このため、パラメーターの動きなどパネル上のコントロールをMIDIコントロール・チェンジ・メッセージとして送受信する場合は、スロット・ボタンを押して使用するスロットを選択します。これにより、そのスロットでのコントロールがグローバルMIDIチャンネルを通じて送受信されます。

複数のスロットを個別にコントロール・チェンジで操作したい場合は、スロットMIDIチャンネルを使用します。

シーケンサーを使う:スロットMIDIチャンネル

シーケンサーの複数のトラックを使用して本機をマルチティンバー音源として使用する場合は、スロットMIDIチャンネルを設定します。この時、キーボードやパネル上のコントロールはグローバルMIDIチャンネルで送信されます。また、シーケンサーがいわゆるエコーバック設定(受信したMIDIメッセージをそのままMIDIアウトから出力する設定)になっている場合、MIDIループ(音が二重に発音されてしまう)を防ぐため、本機のローカル・コントロールをオフにします。

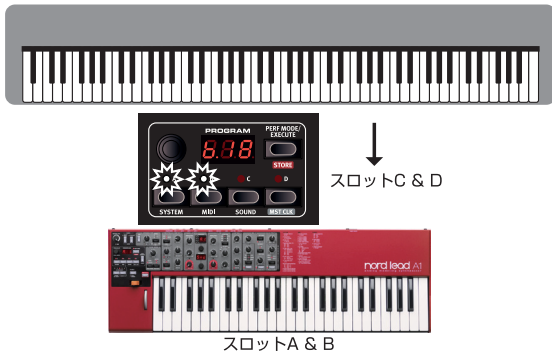


スロットMIDIチャンネルを設定することにより、スロットごとのパラメーターの動きなどを本機や外部MIDI機器を使用してレコーディングすることができます。

シーケンサーの別のトラックでパラメーターの動きなどをレコーディングする場合は、そのトラックのMIDIチャンネルをコントロールしたいスロットのMIDIチャンネルに合わせます。

外部キーボードでスロットをコントロールする

パフォーマンス・モードでは、スロットMIDIチャンネルを設定することにより、本機のキーボードと外部キーボードやシーケンサーを併用してスロットをコントロールすることができます。これにより、オンになっているスロットは本機のキーボードで演奏し、オフになっているスロットをシーケンサーやキーボードなどの外部MIDI機器からコントロールすることができます。



MIDIメッセージの種類

プログラム・チェンジ、バンク・セレクト

プログラム・チェンジ・メッセージは、グローバルMIDIチャンネルを通じて送信され、グローバルまたはスロットMIDIチャンネルで受信します。バンク・セレクト・メッセージ(CC00、CC32)は本機の8つのプログラム・バンク(CC00、値0+ CC32、値0~7)または4つのパフォーマンス・バンク(CC00、値0+ CC32、値0~3)を選択する時に使用します。外部MIDI機器からバンク・セレクト・メッセージを使用する際は、直後にプログラム・チェンジ・メッセージを送信する必要があります。

本機の各スロットは、スロットMIDIチャンネルでプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、そのスロットのプログラムが切り替わります。

パフォーマンス・モードの場合、グローバルMIDIチャンネルでプログラム・チェンジ・メッセージを受信するとパフォーマンスが切り替わります。

- ❶ プログラム・モードの場合、グローバルMIDIチャンネルでプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、その時にオンになっているスロットのみのプログラムが切り替わります。

本機でプログラム・チェンジ・メッセージを送受信したくない場合は、MIDIメニューで設定をオフにできます。

コントロール・チェンジ・メッセージ

本機のほとんどのパラメーターはコントロール・チェンジ・メッセージを送受信できます。コントロール・チェンジ・メッセージで送受信可能なパラメーターのリストは、33ページをご参照ください。

コントロール・チェンジ・メッセージを送受信したくない場合は、MIDIメニューで設定をオフにできます。

ペダルのコントロール・チェンジ

システム・メニューでコントロール・ペダルの機能をボリュームに設定した場合、ペダルでCC7を送信でき、モーフ機能で使用する場合はCC11を送信します。サステイン・ペダルはCC64を送信します。

ボリューム

パフォーマンスや個々のスロットのアウトプット・レベルを操作すると、CC7をグローバルMIDIチャンネルまたはスロットMIDIチャンネルを通じて送信します。

パン

パフォーマンスや個々のスロットのパンニングを操作すると、CC10がグローバルまたはスロットMIDIチャンネルを通じて送信されます。

MIDIローカル・コントロール

お使いのシーケンサーがいわゆるエコーバック設定(受信したMIDIメッセージをそのままシーケンサーのMIDIアウトから出力する設定)になっている場合、MIDIループ(音が二重に発音されてしまう)を防ぐため、本機のMIDIメニューでローカル・コントロールをオフにします。

MIDIスルー

MIDIメニューでMIDIスルーをソフト的に行うチャンネルを設定できます。これを設定すると、そのチャンネルで受信したMIDIメッセージやMIDIクロックを本機のUSBポートやMIDIアウト端子からそのままスルーさせることができます。

MIDIクロック

本機のマスター・クロックはMIDIクロックを受信すると自動的にMIDIクロックと同期します。

- ❶ 本機はMIDIクロックを送信することはできません。本機を含む複数のMIDI機器のクロックを同期させたい場合は、外部MIDIクロックを使用します。

USB-MIDI

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8をOSに使用しているPCをお使いの場合は、Nord USB Driver v.3.xをインストールすることでUSBポートを使用して本機をMIDIコントロールすることができます。ドライバーは、本機をPCとUSBケーブルで接続することによりWindowsアップデートを通じてインストールされます。また、USBドライバーはNordウェブサイトからもダウンロードできます。

- ❶ Mac OS XのコンピュータはOSが本機で使用できるUSB-MIDIの機能をすでにサポートしていますので、ドライバーのインストールは不要です。

パニック

本機の音が止まらなくなってしまった場合は、[PANIC]ボタンを押します。すると、受信していたCCメッセージをリセットし、全スロットにオール・ノート・オフ・メッセージを送信して音を止めます。



MIDIダンプ

MIDIダンプの送信

プログラム/パフォーマンスのパラメーター・データは、コントロール・チェンジまたはシステム・エクスクルーシブ・メッセージとして送信できます。送信はMIDIメニューに入ってから行います。

コントロール・チェンジで送信する場合、その時選択していたプログラムのオンになっているスロットのパラメーター・データのみが送信されます。シーケンサーのトラックの先頭に記録しておく、その後コントロール・チェンジをレコーディングする際に便利です。

システム・エクスクルーシブで送信する場合は、プログラムまたはパフォーマンス1個分の全データを送信します。また、システム・エクスクルーシブで送信する場合は、プログラムまたはパフォーマンスのバンク1個分の前データを送信することも可能です。

MIDIダンプの受信

送信側のMIDI機器と本機のグローバル(またはスロット)MIDIチャンネルが合っているかどうかを確認してから、コンピュータ/シーケンサーの送信操作を行います。

プログラム1個分のデータを受信した場合、本機のエディット・バッファにデータが入ります。そのデータを残しておきたい場合は、保存操作を行います。また、バンク単位のデータを受信した場合、その時選択していたバンクに上書き保存をしますので受信の際は十分にご注意ください。

MIDIコントローラー・リスト

以下の表は、Nord Lead A1のパラメーターとMIDIコントロール・チェンジ・ナンバーの対応関係をまとめたものです。

- オン/オフ切替のボタン型パラメーターでは、オフの状態ではコントロール・チェンジの値が「0」、オンで「127」になります。
- ボタン型のパラメーターでも設定値がオン/オフ以上に数段階あるものでは、その中の最低値がコントロール・チェンジの値「0」と対応し、「127」までの間を設定値の数に応じて区分しています。

Nord Lead A1 パラメーター	MIDI CC
Arp Run	90
Arp Tempo/Clk Divisions	9
Arp Master Clock Enable	86
Arp Range	88
Arp Direction	89
Glide Rate	5
Mono Selector	15
Voice Mode Unison	16
Pitch Bend Range	118
Vibrato Select	56
LFO Rate/Clk Divisions	19
LFO Waveform Selector	20
LFO Master Clock Enable	2
LFO Envelope Selector	34
Mod Envelope Attack	26
Mod Envelope Decay/Sustain	27
Mod Envelope Release	28
Mod Envelope Invert	38
Mod Envelope Velocity	29
Osc LFO Modulation Amount	68
Osc Mod Envelope Amount	69
Osc Control	31
Osc Waveform Selector	30
Osc Configuration	33
Filter LFO Modulation Amount	48
Filter Mod Envelope Amount	43
Filter Frequency	74
Filter Type	44
Filter Keyboard Tracking	46
Filter Drive	47
Filter Resonance	42
Amp Envelope Attack	73
Amp Envelope Decay	36
Amp Envelope Release	72
Amp Envelope Velocity	35
FX Amount	55
FX Selection	53
FX On/Off	52
Delay Tempo/Clk Divisions	78
Delay Master Clock Enable	51
Delay Feedback	79
Delay Ping Pong	100
Delay Amount	76
Delay On/Off	99
Output Level	71

Nord Lead A1 パラメーター	MIDI CC
Pan	10
Reverb Amount	98
Reverb Selector	96
Reverb On/Off	97
Octave Shift	17
Hold	58
Hold Enable	54
Slot Focus	119
Slot Enable	115
Volume Pedal(システム・メニューのコントロール・ペダル・モードでボリュームを選択した場合)	7
Ctrl Pedal(システム・メニューのコントロール・ペダル・モードでモーフを選択した場合)	11
Mod Wheel	1
Wheel/Pedal Morph(CC受信用)	11
Sustain Pedal	64
Bank Select MSB	0
Bank Select LSB	32

MIDIインプリメンテーション・チャート

機能		送信	受信	備考
ベーシック・チャンネル		1-16	1-16	スロットA、B、C、D個別にチャンネル設定可能
デフォルト・チャンネル		1-16	1-16	
モード	デフォルト メッセージ その他	モード1,3 × *****	モード1,3 ×	
ノート・ナンバー	トゥルー・ボイス	0-127	0-127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○、v=1-127 ×	○、v=1-127 ×	
アフタータッチ	キー チャンネル	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		○	○	
コントロール・チェンジ		○	○	MIDI CCリスト(33ページ)参照
プログラム・チェンジ トゥルー・ナンバー		○、0-98	○、0-98	バンク・セレクト:CC00、CC32
システム・エクスクルーシブ		○	○	
システム・コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
システム・リアルタイム	クロック コマンド	× ×	○	
その他のメッセージ	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センス リセット			
ナンバー	トゥルー・ボイス			

モード1：オムニ・オン、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ

モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード4：オムニ・オフ、モノ

○：可能

×：不可能

12 付録

仕様

一般:

- キーボード: 49鍵、4オクターブ、ペロシティ・センス、オクターブ・シフトボタン(±2オクターブ)付きキーボード(Nord Lead A1のみ)
- 同時発音数: 26ボイス
- キーボード・スプリット: アッパー、ロワーで2スロットずつ(AB、CD)使用可能
- モジュレーション・ホイール(Nord Lead A1のみ)
- ピッチ・スティック: ゼロクロス不感帯なし(Nord Lead A1のみ)
- ピッチ・バンド・レンジ: プログラム可能(最大±4オクターブ)、アップ/ダウン別の設定あり(+2半音、-12または-24半音の2タイプ)
- ペダル・インプット: サスティン・ペダル端子×1、エクスプレッション・ペダル端子×1

ユーザー・インターフェイス:

- 3桁LEDディスプレイ、ノブ×23、エンコーダー×3、ボタン×20以上を使用して音色エディット、演奏が可能

オシレーター・セクション:

- オシレーター・モデル: マルチプル・ウェーブフォーム(アナログ、拡張アナログ、パルス波形、デジタル波形)
- オシレーター・コンフィギュレーション: 8タイプ(ピッチ、デチューン、シェイプ、シンク、AM、ノイズ、ミックス、FM)

フィルター・セクション:

- フィルター・モード: 12dB/oct(2ポール)ローパス、24dB/oct(4ポール)ローパス、バンドパス、ハイパス、ラダーM、ラダー303
- コントロール: カットオフ、レゾナンス、エンベロープ・アマウント、LFOアマウント、エンベロープ・アマウント(ペロシティ・コントロール)
- キーボード・トラッキング: 4段階(オフ、1/3、2/3、1:1)
- フィルター・ディストーション調整可能

モジュレーション・セクション:

- LFO: 波形: 三角波、矩形波、ノコギリ波、反転ノコギリ波(ランプ波)、サンプル&ホールド、フィルターのカットオフ・フリクエンシー及びオシレーターのモジュレーションに使用可能、LFO周期はマスター・クロックに同期可能
- LFOエンベロープ・モード: ノート・オンごとにスタート可能
- アルペジエーター: レンジ: 1~4オクターブ、モード: アップ、ダウン、アップ/ダウン、ランダム、マスター・クロックに同期可能
- ADR/ASRエンベロープ: ペロシティ・コントロール(オン/オフ)、エンベロープ反転(オン/オフ)

パフォーマンス・セクション:

- ボイス・モード: ポリ、レガート、モノ、グライド(レガート、モノで使用可能)、トゥルー・ユニゾン1、2、3
- 4つのプログラム・スロットを使用してレイヤー・サウンドを作成可能
- エフェクト・セクション: フランジャー、フェイザー、リング・モジュレーション、コーラス、アンサンブル、ドライブ
- デイレイ・セクション: タップ・テンポ、フィードバック(4段階)、ピンポン・モード、ドライ/ウェット・ミックス、デイレイ・テンポ(タイム)はマスター・クロックに同期可能
- リバーブ・セクション: 5アルゴリズム(ルーム、ステージ1、ステージ2、ホール1、ホール2)

メモリー:

- プログラム: 400プログラム(8バンク×50プログラム)
- パフォーマンス: 200パフォーマンス(4バンク×50パフォーマンス)

オーディオ・アウト:

- 4アウトプット: スロット別に独立出力可能
- ヘッドフォン出力
- 高解像度低ノイズ24ビットD/Aコンバータ使用

MIDI機能:

- コントロール・ノブ、スイッチはMIDIコントロール・チェンジ・メッセージの送受信可能
- システム・エクスクルーシブ・バルク・ダンプ: 1プログラム、全プログラムの送受信可能
- マスター・クロックはMIDIクロックに同期可能
- ソフト・スルー機能

接続端子:

- オーディオ・アウト: 4系統、ライン・レベル、標準(6.35mm)ジャック(不平衡)
- ヘッドフォン・アウト: 標準ステレオ(6.35mm)ジャック
- サスティン・ペダル・インプット: 標準(6.35mm)ジャック、モーメンタリー・タイプのペダル(コルグDS-1H等)をご使用ください。
- コントロール・ペダル・インプット: 標準TRS(6.35mm)ジャック、エクスプレッション・ペダル(コルグEXP-2、XVP-10)をご使用ください。
- USBポート: USB-MIDI機能使用可能
- MIDI端子: MIDI IN、MIDI OUT

付属品:

- ユーザー・マニュアル
- 電源コード
- ラックマウント・アダプター(Nord Lead A1Rのみ)

外形寸法、重量:

- Nord Lead A1: 864 (W) x 272 (D) x 94 (H) mm、4.85kg
- Nord Lead A1R: 466 (W) x 169 (D) x 155 (H) mm、3.35kg

本マニュアルに記載の商品名、ブランド名はすべて各保有者の商標で、本機の機能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。

仕様は予告なく変更することがあります。

ディスプレイ・メッセージ

メッセージ	内容
保存時	
<i>Pro</i>	メモリー・プロテクトがオンになっています。
マスター・クロック・テンポ	
<i>E.C.L</i>	マスター・クロックがMIDIクロックに同期しています(手動でテンポ変更できません)。
ミュートター、ランダマイズ、イニシャライズ・サウンド	
<i>mut</i>	ミュートターを実行するには(EXECUTE)ボタンを押してください。
<i>rnd</i>	ランダマイズを実行するには(EXECUTE)ボタンを押してください。
<i>ini</i>	イニシャライズを実行するには(EXECUTE)ボタンを押してください。
<i>DE</i>	ミュートター、ランダマイズ、イニシャライズを実行しました。
コピー/ペースト関連	
<i>CP.x</i>	スロットをコピーしました(「x」にはa、b、c、Dのいずれかが表示されます)。
<i>PS.x</i>	スロットにペーストしています(「x」にはa、b、c、Dのいずれかが表示されます)。
<i>CPy</i>	ペロシティ/ホイールのモーフをコピーしました。
<i>PSy</i>	ペロシティ/ホイールのモーフをペーストしています。
<i>S.D</i>	設定値5.0でコピー/ペーストしています(設定値:0.0~10.0)。
MIDIシステム・エクスクルーシブ関連	
<i>E.S.u</i>	リード/ライト・エラーが発生しました。
<i>E.S.i</i>	サイズ・エラーが発生しました。
<i>E.uE</i>	バージョン・エラーが発生しました。
<i>E.Ch</i>	チェックサム・エラーが発生しました。
<i>Pro</i>	メモリー・プロテクトがオンになっています。

13 インデックス

英数

AM(振幅変調) 22
 BP(バンドパス) 24
 DLY1(ビブラート) 18
 (DRY/WET)ノブ(ディレイ、リバーブ) 25
 FM(周波数変調) 22
 (FREQ)ノブ 23
 HP(ハイパス) 24
 LEDディスプレイ 16
 (LEVEL)ノブ(アウトプット・セクション) 25
 MIDIメニュー 30
 MIDIチャンネル 30
 (NOTE TRIG)ボタン 25
 (PANIC)ボタン 18
 (PASTE)ボタン 16
 (RATE)ノブ(LFO) 19
 (SHIFT)ボタン 17
 (STORE)ボタン 16
 (TYPE)ボタン(フィルター) 23
 USB接続 8

ア行

アウトプット・セクション 25
 アウトプット・ルーティング 29
 アタック 22
 アルペジオ 18
 アルペジオ・ディレクション 18
 アルペジオ・レンジ 18
 ウェーブフォーム・セレクター(LFO) 19
 エクスプレッション・ペダル 8
 エンベロープ・アマウント 23
 オーディオ端子 8
 オクターブ・シフト 17
 オシレーター 20
 オシレーター・コンフィギュレーション 21

カ行

キーボード・シンク(マスター・クロック) 30
 キーボード・トラック(フィルター) 23
 グライド 18
 グローバル・オクターブ・シフト 17
 グローバル・チャンネル 30
 コピー 16
 コントロール・チェンジ・モード 30

コントロール・チェンジ・リスト 33
 コントロール・ペダル 8
 コントロール・ペダル・ゲイン 29
 コントロール・ペダル・タイプ 29
 コントロール・ペダル・モード 29

サ行

サスティン・ペダル 8、29
 シェイプ・コンフィギュレーション 21
 システム・メニュー 29
 仕様 35
 シンク・コンフィギュレーション 21
 スプリット 10、17
 スロット 9、17
 スロット・アウトプット 29
 スロット・チャンネル 30
 接続端子 8
 セレクター・ボタン 7
 センドCC 30
 ソフト・スルー 30

タ行

ダンプ・プログラム・バンク 30
 ダンプ・ワン 30
 ディケイ 22
 ディスプレイ 16
 ディレイ(ON)ボタン 25
 ディレイ・フィードバック 25
 ディレイ・モード 30
 デチューン・コンフィギュレーション 21
 ドライブ(フィルター) 23
 トランスポーズ 29

ナ行

ノイズ 21

ハ行

パフォーマンス・モード 16
 パラメーターの変化幅(モーフ) 14
 ピッチ・コンフィギュレーション 21
 ピッチ・バンド・モード 30
 ビブラート・アマウント 30
 ビブラート・レイト 30
 ファイン・チューン 29
 フィルター 23
 フォーカス 9
 フリケンシー(フィルター) 23

プログラム/バリュー・ダイアル 16
 プログラム・チェンジ 30
 ペダルの接続 8
 ヘッドフォン端子 8
 ベンド・レンジ 18
 ホールド 17
 ホールド・イネーブル 17
 ホイール(モーフ) 13
 ボイス・モード 18
 保存する 9

マ行

マスター・クロック 26
 マスター・レベル 16
 ミックス・コンフィギュレーション 22
 ミューテーター 15
 メモリー・プロテクト 29
 モーフィング 13
 モーフ・パラメーター 13
 モジュール・エンベロープ 19
 モジュール・ホイール 18
 モノ 18

ヤ行

ユニゾン 18

ラ行

ラッチ機能(モーフ) 14
 ランダムイズ 15
 リリース 22
 レイヤー 9
 レガート 18
 レゾナンス 23
 ローカル・コントロール 30
 ローパス 23

